平成２８年度使用

中学校教科用図書の選定に必要な資料

出雲採択地区教科用図書採択協議会

※　各発行者記号は次のとおりである。

記号	発行者名
A	東京書籍
B	大日本図書
C	教育図書
D	開隆堂出版
E	学校図書
F	三省堂
G	教育出版
H	教育芸術社
I	清水書院
J	光村図書出版
K	帝国書院
L	大修館書店
M	新興出版社啓林館
N	数研出版
O	日本文教出版
P	学研教育みらい
Q	自由社
R	育鵬社
S	学び舎

選　定　に　必　要　な　資　料

国語科　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○本編の読み物資料が精選され、資料編は本編と比較し関連づけて読める文章が収められており、発展的な扱いもできるよう工夫されている。 ○非連続型テキストの読み方や使い方を扱った学習材を取り入れている。	○本編の「学びの扉」の内容を、巻末基礎編の「学びを支える言葉の力」で詳しく学べ、その後の学習材につけた力が使えるよう工夫されている。 ○３年「いつものように新聞が届いた～メディアと東日本大震災」など社会的に話題となった事柄と関連する学習材が取り上げられている。	○「話す・聞く」「書く」の領域では、学習の手順の詳しい説明に合わせ、構成例や報告例、完成例など具体例を示すことで、学習をイメージしやすいように配慮している。 ○「文法の窓」にクイズやゲーム形式を取り入れ、文法学習への抵抗感をなくす導入の工夫をしている。	○巻頭の折り込みページでは、学習の進め方や１年間の学習の流れを表や図を使って示し、見通しをもって学習に取り組めるように工夫されている。 ○「ウェビング」などの思考ツールを使って学習を進めたり、資料編で「発想・整理の方法」を紹介したりして情報活用能力を育成するように工夫されている。	○巻末の基礎編､資料編には､既習事項の確認や練習問題､関連ある読み物等を掲載し、家庭での自主学習にも使えるよう工夫されている。 ○日常の読書生活に役立つ「読書案内」を設け､作者の作品や学習材の関連図書を紹介したり、資料編で様々な読書活動を取り上げたりしている。	○文法の学習は、１年「単語分類マシン」など、本編で導入を工夫し、基礎編「文法解説」で詳しく学べるようにしている。 ○資料編「言葉を広げよう」、「学習用語一覧」では、学習した内容に関係ある言葉を集め、語彙を増やす工夫がされている。	○巻頭のカラーページや各単元の扉には、季節感のある写真、四季を味わう言葉や詩歌などを置き、感性を磨く場としている。 ○「てびき」は、付けたい力を「言葉の力」として説明し、巻末には「言葉の力」を整理して表にし、３年間で系統的に学ぶことがわかるよう示されており、特に優れた教科書である。
E	○関連する複数の文学的な文章で単元を構成し、２年で戯曲作品を取り上げるなど多様な文章に触れられるよう工夫されている。 ○「読む」学習材で学習したことと関連付けてその後の「話す・聞く」「書く」領域の単元を貫く言語活動が行えるよう工夫されている。	○各学年とも、同じタイトルの５つの単元でくくり、学年段階に応じた学習材が配置されている。各単元で選択教材を補充発展的に扱えるよう工夫されている。 ○各単元の扉に暗唱に適した、かつメッセージ性の強い詩の一節が掲載され、学習意欲を高める工夫となっている。	○言語の学習のページには全学年同じキャラクターを登場させたり、古典教材の資料として絵本や漫画を取り上げたりと学習材を身近に感じさせるよう工夫されている。 ○「言語の学習」に「今に伝わる注意したい古語」一覧があり、古典学習を身近に感じることができるように配慮されている。	○各学年の「情報と表現」では、演習を進めながら、表現の特色について考えを深められるよう活動が工夫されている。 ○読書案内では、作品を羅列するのではなく、関心のあるものや読んでみたいものを探せるように工夫されている。	○「学びの窓」は「読む前に」「読み深める」「まとめ」と読みの段階によって課題が設けてある。課題もスモールステップで、書き込めるようになっているため自学自習で取り組みやすくなっている。 ○詩の学習では､比較読みができるよう同じ作者の作品が複数紹介されている。	○３年では日本語を表す文字として点字、手話や指文字を取り上げ、文字について視野を広げる工夫がされている。 ○巻末では「語句・語彙の学習」として解説を付し、調べたり確認したりできるようになっている。	○各単元におかれた「選択教材」には新出漢字がなく、進度や生徒の実態に合わせた取扱ができるよう配慮されている。 ○「学びの窓」の「ついた力を確かめよう」を用いて、「言葉の力」「考える力」「知識や技能」の３つの観点で学習を振り返り、自己評価することができるよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

国語科　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
F	○「読む」領域では、文学的文章を精選し配置しており、近代の作家については、作家の他の作品に読み広げられるよう読書案内が工夫されている。 ○「書く」領域では、情報整理の方法などスキルが学べたり、手紙やはがきの種類について紹介したりし、日常生活に役立つよう工夫されている。	○「読む」領域では、各学習材に「読み方を学ぼう」を置き、文章を読むときのスキルをまとめて図示し、読みが深まるよう工夫されている。 ○「話す・聞く」の学習材全てで、様々な形のグループ活動を設定し、協同して学習を進めることで、考えを広げたり、深めたりできるよう工夫されている。	○即興劇や古典の超訳など、生徒が意欲的に表現を工夫できるような学習材が選定されている。 ○古典の学習には、写真や絵を多用し、配色を工夫し、本文だけでなく古典に描かれている世界観も楽しめるよう工夫されている。	○資料編には、「読書の広場」の中に「情報探しのヒント」「情報活用のヒント」というページを設け、図書館などを使った情報活用について具体的な方法が紹介されている。 ○単元「ふるさとを見つめなおす」では、自分の住む地域を紹介する情報誌を作成することを課題とし、製本までの過程で「書く」「話す・聞く」の言語活動を取り入れている。	○新出漢字について、脚注には本文の用例通りに記し、巻末の「○年生で学ぶ漢字辞典」にまとめており、自学自習に利用できるように設定されている。 ○発展的学習として設定された「学びを広げよう」では、２つの課題が示されている箇所があり、生徒が選択したり、進度の速い生徒は両方を行ったりできるようになっている。	○資料編に「学習用語辞典」を掲載し、学習活動に役立つ用語をまとめ、詳しい解説をつけている。 ○資料編では学年段階に応じて、様々な思考ツールを使い方とともに紹介している。	○「学びの道しるべ」として学習の流れを示すとともに、「読み方を学ぼう」という読み方のスキル学習を効果的に配置し、生徒の主体的な学びにつながるよう工夫されている。 ○「話す・聞く」「書く」の教材では、本文にアイコンをつけて下段のまとめを見たり、巻末の参考資料で詳しい解説を読んだりできるよい教科書である。
G	○各学年の説明的な文章では、比べ読みできるよう複数の学習材を配置し学年段階に応じた批判的な読みの態度が養われるよう工夫されている。 ○巻末の「言葉の自習室」に補充学習材を掲載することにより、基礎・基本の定着と同時に、生徒の「自主学習」「家庭学習」の充実が図られるよう工夫されている。	○学習材末の「みちしるべ」は、学習の進め方や「ここが大事」として教材で学びたい読みの手法が示されるなど、読みが深まるよう工夫されている。 ○著名人の論説を学習材に取り入れることにより、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。	○文章と図表などを関わらせて読むことで、理解が深まる学習ができるような図版・写真が取り上げられている。 ○各学年とも巻末に折り込みページを設けて、古典作品に興味がもてるよう紹介しており、伝統的言語文化の学習が工夫されている。また、写真など資料を付して生徒の興味喚起を図っている。	○学習材末に関連図書を紹介し、読書により学習を深化、拡充するよう工夫されている。また、表紙写真とともに紹介することで、図書館で検索しやすいよう工夫されている。 ○各学年とも実際に表現する活動を取り入れ、メディアの特性について理解を深め自分の表現に生かせるような題材が選定されている。	○巻末「学びのチャレンジ」には、本編教材での学習をふまえた応用問題を設定しており、思考力、判断力、表現力を高めるよう工夫されている。 ○単元ごとの「みちしるべ」に読書紹介のコーナーがあり、学習後の読書活動にもつながっていくように工夫されている。	○各学年とも巻頭（p.7)に「身につけたい言葉の力」「教科書の構成」を示し、国語の学習を概観できるよう工夫されている。 ○読書単元で「作品解説」や「作者紹介」を資料とともに詳しく掲載している。	○比べ読みができるよう複数の説明的な文章で単元を構成したり、メディアの学習で、実際に表現する活動を取り入れたりするなど学習材の選定が工夫されている。 ○「四季のたより」に季節の言葉や詩歌が多く載っていて、豊かな感性を育むような配慮がされており、よい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

国語科　No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
J	○１年の学習材は、身近なことを扱ったものや物語、３年の学習材は、社会に目を向けたものやより深い思考を必要とするものというように、発達の段階に応じた内容になっている。 ○「話す・聞く」「書く」の中心の学習材の他に短時間で取り組める題材を設け、生活や他の学習の場で生かせるよう工夫されている。	○説明的な文章は、社会、文化、芸術、思想など、幅広い分野の評論や記録などになっている。また、各学年に東日本大震災に関する教材が入っている。 ○１年最初の単元は、声の出し方、ノートの取り方、調べ方など中学校国語の授業開きを意識した内容となっている。	○「話す・聞く」「書く」の学習材末に、「次につなげよう」があり、他の学習や委員会活動など具体的に生かせる場面を挙げ、生徒の意欲を高める工夫がされている。 ○ノンフィクション作品を取り上げ、読書や社会への関心が高まるような題材が工夫されている。	○「読む」の学習材では目標に対する「学習の振り返り」の観点が工夫されており、自分の言葉で何を学んだのかをまとめるようになっている。 ○情報の集め方、吟味、発信について、学年で段階的に情報活用能力の基礎を身に付けることができるようになっている。	○資料編には、小学６年で学習した漢字の練習問題や文法のまとめがあり、特に１年では手書き風の書体で書かれた漢字が掲載され、漢字などの定着に向けて配慮されている。 ○「話す・聞く」「書く」では、学習の流れとポイントを図示し、これまでの学習を生かし見通しをもって学習できるよう工夫されている。	○学年に応じて、自己の読書生活を振り返り、推薦本を書く活動を設けている。 ○巻末の折り込みページに文学的及び説明的な文章各々の用語の説明があり、学習用語が活用できるよう工夫されている。	○「読む」学習材末に「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」について、それぞれ課題が設定され、読解力をつける手引きになっている。 ○「季節のしおり」を適宜配置し、絵画とともに季節にまつわる詩歌や暦の言葉などを紹介することで、言語感覚が養われるよう配慮されており、優れた教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

書写　No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○本編９８ページ、資料編２９ページ、総１２７ページからなる。 ○全体的に色使いがきれいに作られている。 ○資料編の人名用漢字表にも色が使われている。	○すべての学年において文字の学習、配列の学習、生活場面における学習の順に単元が構成されている。 ○「二」「十」「口」「人」という四つの基本的な動きのパターンから行書学習に入り、他の文字へ応用することで、段階的に行書を身に付けられるような構成となっている。	○改善が必要な書字例を示し、改善点を進んで考えられるように工夫されている。 ○学習を深める内容や生活に密着した情報や豆知識が折り込まれた「しょしゃのたね」や「しょしゃのつぼ」というコラムが設けられ、興味を引くように工夫されている。	○「生活に広げよう」のページや「生活を豊かにする」文字の単元では学習過程を示し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○職場訪問、手紙の書き方、願書の書き方など総合的な学習や各教科・領域でも使うことができる内容が多く取り入れてある。 ○県硬筆コンクールの課題や公立高校入試を意識した書写テストが取り入れてある。	○「書くときのポイント」をページ端に帯で示し、どのようなことに気をつけて書けばよいか確かめながら学習ができるようにしている。 ○日本及び中国の古典を取り上げ、芸術書道の学習へのつながりに配慮されている。	○資料中に「人名用漢字表」を載せ、生徒が自分の名前を書くための手本、手がかりとして活用できるようにしている。 ○判型がＡＢ判と幅が広く、見開きページを生かして大きな写真や図版、イラストによる資料を豊富に使用しており、生徒が積極的に先を読みたくなるような紙面構成である。	○各学年の表紙に、今まで身についた力とこの学年で身に着けたい力を絵によって表示してあり、生徒が課題意識を持ちやすい作りにもなっている。 ○１、２年で基礎的な知識・理解に重点を置き、３年でそれらを活用して、目的に応じて文字を書く技能を育てるように工夫されており、特に優れた教科書である。
E	○本編１０６ページ、資料編１１ページ、総１２０ページからなる。 ○落ち着いた色使いである。 ○朱墨等を用いて筆遣いの説明が分かりやすく示されている。	○１、２年では毛筆教材の後に硬筆教材を配置し、毛筆学習と硬筆学習の関連を理解できる構成になっている。 ○行書の基本的な点画は応用に生かせるページである。 ○硬筆教材はマスに縦・横の中心線が書かれており、硬筆ノートとしての利用がしやすい。	○「書写の窓」では、書写に関する疑問や学習の留意点についてのまとめ、書体の歴史、手紙のマナー、篆刻などを取り上げ、興味・関心の幅を広げる工夫がされている。 ○「書写を生活に生かそう」では、生徒作品を写真で紹介し、具体的なイメージをもちやすいような工夫がされている。	○場面に応じて書く学習では、素材に清掃活動や福祉体験学習を取り上げ、学びと生活・社会とのかかわりについて興味・関心を高める工夫がされている。 ○「書写を生活に生かそう」では、様々な筆記具の紹介や学校行事におけるレポートや礼状や作文、宅配便の送り状等を取り上げ、生活に生きる書写の教材を提示している。	○縮小した手本に赤字で筆順や注意点を付記し、自分で確かめながら学習ができるよう配慮されている。 ○１・２年とも学年末に「確かめよう」で、１年間の学びで気づいたことを意識させて、活用への意欲づけとなるよう配慮されている。	○「篆刻を体験しよう」では篆刻の作り方や生徒作品例が紹介され、文字への興味や関心を広げるよう配慮されている。	○実際に練習したり、作品を作ったりする活動が中心となっている。 ○他社に比べると紙面が簡素化されている。 ○３年間を通して、社会生活場面で文字を整えて書く力を育成するように構成されたよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

書写　No. ２

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
F	○本編６７ページ、資料編３９ページ、総１１６ページからなる。 ○姿勢・用具の用い方・資料などが、写真を用いて分かりやすく示されている。	○１、２年とも「考えよう・話し合おう」で話し合いや考察を経てから、主教材の学習へと進むよう編集されている。 ○全学年で基礎的・基本的な学習の単元の後に、「生活に生かそう」の単元が配置され、身に付けた力をすぐに活用し、確実に定着させる工夫がなされている。 ○算用数字、アルファベットを含む文の整え方は一番わかりやすい。	○行書の最初の教材では、制限時間内に書いてみる活動を通して、行書学習の意義をつかめるように工夫されている。 ○「書写の探検隊」というキャラクターが学習をナビゲートし、生徒が見通しをもって学習できるような配慮がされている。	○３年「生活に生かそう」では、毛筆半紙作品と硬筆作品とを並べた卒業記念冊子を作る活動を設定し、３年間の学習の積み上げを実感できるような工夫がされている。 ○巻末資料編では、さまざまな場面や用途に応じた書式が「日常の書式」としてまとめられており、実生活や他教科等で活用できるよう配慮されている。	○「書の名手たち」というページでは、古典と筆者が紹介され、芸術書道への興味・関心を高める工夫がされている。 ○毛筆の学習では「書いて確かめよう」として学習内容を硬筆で確認する活動を設け、生徒が毛筆学習の予習や復習に自主的に取り組めるような工夫がされている。	○J-POPの歌詞を書写した作品や筆記具の進化、コンピュータ開発者の逸話を取り上げ、現代社会における手書き文字の価値について視野を広げる工夫がされている。 ○三年間で学んだ書写技能で中学校書写として身についた力の振り返りができる。	○全般に、課題解決的な編集となっており、主体的に学習に取り組める工夫がされている。 ○学習課題に対して生徒が思考・判断することで基礎的・基本的な技能が身に付けられるような工夫がされているよい教科書である。
G	○本編１１３ページ、資料編が２７ページ、総１４０ページからなる。 ○姿勢・用具の用い方・資料などが、写真を用いて分かりやすく示されている。	○全ての毛筆教材の中に、「ためし書き」「まとめ書き」等、硬筆の練習を取り入れ、日常の書く活動につなげる工夫がされている。 ○行書の筆使いはイラストの手の流れによってイメージをつかみやすいようになっている。 ○他社は硬筆課題に書き込み練習マスを設けているが本社は少な目（手本としての提示）である。	○「文字は残る」「あの人が残した文字」のページでは、著名人の実際の筆跡を紹介し、書字についての興味・関心を高めるような工夫がなされている。 ○クラス旗やクラスＴシャツ、卒業カレンダーなどといった身近な場面に学習を生かせる例を取り上げて、興味・関心をもてるように工夫されている。	○「文字で心を伝えよう」のページでは、文字や言葉によるコミュニケーションや仲間づくりを考えさせる工夫がされている。 ○「暮らしの文字を支える人々」や「社会で生きる文字」では、学びと生活・社会のつながりを具体的に示す工夫がされている。	○補充教材集１、２で教材を複数示し、興味・関心や習熟度に応じて生徒が選択し、学習が深められるような工夫がなされている。 ○「日本建築と『書』」「芸術としての書道」では、文字文化と芸術との関係について意識を高める工夫がされている。	○巻末の漢字一覧は部首ごとにまとめられており、字形を学ぶ際の参考にしやすい編集となっている。	○学習を日常に生かすというねらいを明確にし、目的意識や相手意識をもって、書くための力をつけられるよう編集されている。(p.1) ○まとめの教材や補充教材を含め、毛筆教材が豊富で、毛筆による基礎・基本の学習の充実が図られているよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

書写　No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
J	○本編５８ページ、資料編５９ページ、総１１９ページである。 ○本編で基礎事項をおさえ活用事項はすべて資料編に入っている。	○学習の流れが見開き２ページに、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」の三段階で示され、見通しをもって学習ができるように配慮されている。 ○字形を整えて書くポイントを言語化させることで技能の定着・活用をはかることができる。	○話し合い活動を取り入れることで「文字」への興味がわく教材が取り入れてある。 ○「活用のヒント」では、情報の収集・整理・発信の例を紹介し、各教科等への書写学習の活用を示し、興味・関心を高める工夫がされている。	○「季節のしおり」では、古謡や唱歌、短歌、俳句、古典、小説などの語句や文章を書写し、日本の言語文化を味わう工夫がされている。 ○３年生の最初にイラストレーターやデザイナーへの取材の文章が掲載されており、キャリア教育の視点が意識されている。	○「先人の文字に学ぶ」では、異なる筆者の同一文字を比べさせ、書字には個性が表れることを示し、芸術書道への興味・関心を高めている。 ○「書写事典」として、常用漢字の楷書・行書やひらがな・カタカナや部首の手本を掲載し、自主学習に活用できるような工夫がされている。	○「三年間のまとめ」では、テスト形式で既習事項の確認ができるように工夫がされている。 ○目標と学習の流れが明確で、生徒が目的意識を持って授業に取り組めるような紙面構成である。	○巻頭･巻末に文字への興味へとつながる素敵な詩が取り上げられている。 ○資料を多くし､必要に応じて基礎･基本の学習と関連させたり他教科等の学習に活用させたりできるようにしてあり、優れた教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（地理的分野）　No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○基礎的・基本的な内容構成であり、分量も適当である。 ○「この国はどこかな」や「地理学習の初めに」など、小学校からのつながりを重視している。（表紙裏）	○とびらのページで使用した写真が、本文中にも出てくるなど一冊の教科書の中で、きちんとした系統性がみられる。 （表紙裏・p. 65）	○地域全体を概観してから、具体的内容に入り、地域の特色をとらえやすい工夫がなされている。 （p. 44-46）	○竹島については、「地理にアクセス」（p. 134）で特集を組んで北方領土・尖閣諸島と並んで詳細に記述されている。 ○「市町村合併」で雲南市が、「交通網の発展」で浜田市がとりあげられている。（p. 199）	○資料には、見開きごとのまとまりで通し番号がつけてあり、わかりやすい。（p. 6-7） ○「トライ」や「スキルアップ」で思考力や応用力を身につけることができるようになっている。 （p. 25, 41）	○世界遺産や重要文化財のマークが資料につけられており、歴史的価値を意識づけやすい。 （p. 203）	○小学校とのつながりを示し生徒の発達段階に考慮している。 ○基礎基本的な内容で構成され、資料やコラム等が豊富であるとともに，思考・判断・表現力の向上も期待できる特に優れた教科書である。
G	○基礎的・基本的な内容の構成であり、活字がはっきりとしていて見やすい。 ○「地理にアプローチ」では、地図やグラフの使い方・見方が示してあり、資料の読み取りなど基本的な能力が身につけられるようになっている。 （p. 21）	○見開きのページごとに、学習課題が示されている。また、「ステップ１」「ステップ２」の２段階のふりかえりもあり、１単位時間で、きちんと完結する構成になっている。 （p. 202-203）	○東京オリンピックなどのタイムリーな話題やカレーから食文化を考えるなど、生徒に身近な題材を扱っている。（p. 121） ○「地理の窓」では、いろいろなトピックスを紹介し、生徒が興味・関心をもつことのできる内容になっている。（p. 231）	○竹島が、尖閣諸島・北方領土とともに扱われている。地図・写真が掲載されている。（p. 131） ○「人口減少にともなう課題」として、大田市をとりあげている。また、「交通手段の多様化」で石見空港をとりあげている。（p. 178）	○「地域から世界を考えよう」や「現代日本の課題を考えよう」などのページが設けてあり、発展的な学習ができるようになっている。 （p. 93, 236）	○それぞれの地域の特色に深く関わろうとしてつくられている。掲載されている写真や資料など独自性のあるものが多い。 （p. 248）	○基礎・基本を身に着ける内容と深めるテーマ学習がバランスよく配置されている。 ○「地域にまなぶ」という一貫したテーマでつくられているよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（地理的分野）　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
K	○基礎的・基本的内容で完結にまとめられている。 ○本文記述が丁寧な表現でまとめられている。	○コラムの記事には、「共生」「環境」「防災」など、はっきりとテーマが示してあり、わかりやすくなっている。(p. 171, 173)	○とびらのページ(各地域・各地方）の「さがしてみよう」で、国や都道府県の位置と写真を照合するようになっており、どこにどういうものがあるのかを理解しやすい。(p. 34, 210)	○竹島が尖閣諸島・北方領土とともに扱われている。地図・写真に加えて、コラムで昔の竹島の様子を伝えている。（p. 127) ○観光をキーワードとした記事で、出雲大社や石見銀山、石見神楽が紹介されている。 (p. 192-193)	○「技能をみがく」のページでは、資料の読取等の技能を活用する力をつけることができる。(p. 138) ○「学習をふりかえろう」では、確認・説明・探求の３段階があり、発展的な学習ができるようになっている。 (p. 48-49)	○写真資料の大きさ、見やすさは秀逸である。（p. 168)	○写真が見やすく，資料が非常によく考えてつくられている。それに基づいて、基礎的な内容がわかりやすく表現されているとともに，「もっと知りたい」という追究できるよう記述された優れた教科書である。
O	○内容・分量ともに適当である。細かい記述の部分があり、「中央構造線」等やや難しい用語もみられる。 (p. 134) ○各州・各地方のとびらのページは、レイアウト的にやや見づらい。 (p. 47, 219)	○見開きページごとに学習課題が示してあり、「学習の確認と活用」で段階的に振り返りやまとめができるようになっている。 (p. 222-223) ○御嶽山の噴火など新しい資料も入っている。(p. 141)	○2014年や2015年の写真・資料が多く使われており、生徒の記憶に新しいところで興味・関心を引くものとなっている。 (p. 97, 132)	○竹島が尖閣諸島・北方領土とともに扱われている。島の写真に加え竹島資料室の写真も掲載している。(p. 118) ○島根県に関しては、雲南市吉田町の生卵専用しょうゆが扱われている。(p. 189)	○各章末の「学習のまとめ」では、ステップ１・ステップ２と段階的に既習事項を整理し、発展的な学習に活用できるようになっている。（p. 89)	○「地理プラスα」のトピックスで、さまざまな情報が得られ、学習内容を深めることができるようになっている。(p. 149)	○写真や資料など最新のものを掲載しており、現在の社会の状況を考えたり、学んだりできるよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（歴史的分野）　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○ＡＢ判で写真･図表が大きく､それらには本文内と同じ番号が記されて本文との関連が掴みすい。 ○全編の50％を近現代が占め､読み物資料「歴史にアクセス」においても60％以上近現代の話題を取り上げている。	○章始めで小学校の復習ができ（p. 20-21）各章間の年表で各時代のつながりを意識できる。（p. 61-63） ○地理や公民と重なる内容に表示があり、関連をつかみやすい。（p. 30）	○１章「歴史の流れ」に歴史と日常との関連や、歴史人物をキャラクター化して歴史の流れがおさえてあり、親しみやすくしている。（p. 5-7）	○竹島問題についての歴史的背景や現状についての記述が特集を組んで詳しい記述がある。（p. 168, 251-252） ○「島根と神話」や欄外解説で石見銀山について詳しく記載している。（p. 59）	○各章末にノートでのまとめ方があったり､ページごとにふり返りの課題が設けられ自分に合った学習法が選べるようになっている。（p. 61） ○プレゼンテーションソフトを使ってのまとめ方を紹介している。（p. 275）	○ＩＣＴ活用が効果的な資料にＤのマークがつけられている。（p. 40） ○「十干十二支」に関する記述があり「壬申, 辛亥」といった語句を教えやすい。（p. 8-9）	○各章始めに小学校での学習を想起させて歴史の大まかな流れをつかませ、各章の最後には語句の確認やまとめの学習ができるとともに、次章につながる年表も掲載し、各時代を概観できるよう配慮された優れた教科書である。
G	○ＡＢ判で写真･図表が大きく､それらには本文内と同じ番号が記されて本文との関連が掴みすい。(p. 98) ○見開き２ページを１小単元とし､全編中55％を近現代が占めている。読み物資料「歴史の窓」において60％以上近現代の話題を取り上げている。	○時代ごとの「時代の変化に注目しよう」を使って、学習の振り返りと次時代の予想ができるよう工夫されている。（p. 52） ○タイトルの上に「時代スケール」があり、何世紀の出来事なのかが分かる。（p. 24）	○小学校で学んだ人物の架空サミットを考えるなど、小学校の復習をして関心を引き出すよう工夫されている。 （p. 6-7, 34） ○プロローグⅡで実際の点字が掲載され、さわれるようになっている。(巻頭5)	○竹島問題についての歴史的背景や現状について特集を組んで詳しい記述がある。（p. 165, 257） ○神話についてのコラムの中で出雲大社が紹介され､石見銀山についても1ページのコラムがある。(p. 48)	○歴史にアプローチというページが設けられ､資料の読み方を解説し､知的好奇心を高めている。（p. 11） ○見開き２ページ毎に「ふりかえる」、章末には基礎･基本の確認と表現力をつける課題が設定されている。（p. 17, 50-51）	○神話について詳しく紹介され、日本古来のものの見方や考え方がギリシャ神話や中国の信仰と関連づけて説明されている。 （p. 48-49） ○長さや面積をイラストで分かりやすく説明している。	○古代、中世といった時代の区切りごとに「時代の変化に注目しよう」という資料を使って、学習した時代の振り返りと次の時代の予想ができるよう工夫されたよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（歴史的分野）　No.　２

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
I	○欄外の解説が詳しく、文章資料は現代語で書かれている。また余白が多く読みやすい。(p. 100, 194-195) ○見開き２ページを１小単元として，全８４小単元で構成されており、そのうち52％を近現代が占めている。	○各章末の「まとめてみよう」は年表・資料・地名によって基礎的な内容を確認し、最後に時代の特徴についてまとめる構成となっている。(p. 56)	○巻頭のキャッチコピーづくりで小学校とのつながりが意識できる。 ○各章のコラム「もっと知りたい歴史」や巻末年表の時代毎の住居（イラスト）などで興味を引き出している。(p. 8-9)	○竹島について「領土の確定と北海道・沖縄」において、短文ではあるが記載がある(p. 178) ○コラム「神話と伝承」に国引き神話について詳しい記載がある。(p. 44-45)	○「まとめてみよう」でさらに深めるための課題が示され学習内容のより確かな定着が図れるよう配慮されている。(p. 11) ○「歴史のとびら」というコラムで、歴史史料の読み方等を解説し、発展的な学習に役立つよう工夫されている。(p. 68-69)	○各章のとびらにその章を貫くような発問があり、章全体として考えていけるようになっている。(p. 5) ○キャラクター等を本文中には使用していないが、人名索引があり調べやすい	○欄外の解説等が詳しく記述され、各章のまとめを１ページとしたりコラムの種類を２種類に絞ったりするなどの、精選したつくりになっている。 ○見開き２ページの内側に本文があるがその幅が狭くて縦に長くて読みやすい教科書である。
K	○ＡＢ判で写真・図表が大きく、それらには本文内と同じ番号が記されて本文との関連が掴みすい (p. 12) ○55％を近現代史が占め、コラム (緑の枠線内の記事)は70％が近現代史関連のものとなっている。	○各部の終末で年表や地図を用いてまとめ、班で調べる課題を設け、協働的な学びができるようになっている。(p. 49-50) ○写真資料の選択が特に優れ、興味を引く。	○想像図「タイムトラベル」が全章始めにあり、時代の様子をつかみやすい。(p. 20-21) ○巻末の年表中「世界のおもなできごと」欄に世界各地の世界遺産が紹介され，興味・関心を引き出すよう工夫されている。	○竹島問題についての歴史的背景や現状についての記述が特集を組んで詳しい記述がある。 (p. 167，247) ○コラム「地域史」において，石見銀山について「日本の中で銀の最大の産地」と紹介されている。(p. 91)	○史料から歴史をみつめまとめたり、学んだことを生かして考えたりできる学習欄があり、発展的な学習ができる。(p. 64, 106) ○見開き２ページごとに、重要語句を用いるなどして自分の言葉で説明する課題が提示してある。(p. 55)	○「タイムトラベル」を活用し、政治の様子だけでなく庶民の生活を通して、歴史を作ってきた人の姿が見えるよう工夫されている。 ○巻末の人物さくいんは、人物を分野別の記号を用いて表記してある。	○各時代を大きくとらえる構成にして、近現代にページを多めにとっている。 ○基礎・基本的な内容で構成され、図表や写真が見やすいとともに、言語活動や発展的学習にも繋げる工夫がしてあるたいへん優れた教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（歴史的分野）　No.　３

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
O	○ＡＢ判で写真･図表が大きく､それらには本文内と同じ番号が記されて本文との関連が掴みすい。(p. 19)	○各編始めの｢地図で見る世界の動き」で、世界とのつながりを意識して学習できる。(p. 60-61) ○各編末にグループでまとめる活動を示し､協働学習が行えるようになっている。(p. 56, 67)	○１編に｢歴史のとらえ方｣で調べ学習についての解説し､小学校とのつながりも配慮されている。(p. 6) ○五穀､文化財､干支､土地制度の移り変わりといった資料を特集している。(p. 281～)	○竹島について近代と現代の欄に要点を絞った記述がみられ､コラムを載せて記述されている。(p. 176, 265) ○コラムで石見銀山が｢全国の銀山の中でも特に産出量が多かった｣と紹介されている。(p. 111)	○見開き２ページ毎に「学習の確認と活用｣という課題が設けられ､自学に取り組めるよう工夫されている。(p. 19) ○巻末に｢歴史学習の基礎資料｣という文化財の見方や史料の読み方が示してあり､発展的な学習に活用できる。(p. 281～)	○各章毎の「先人に学ぶ」で歴史上人物だけでなく、食、伝統文化、防災といった分野での先人について取り上げている。(p. 274-275) ○左ページ端に時代を確認できるよう時代スケールが記載されている。	○絵画史料等から歴史をひもとく経験ができるようになっており、中学校以降の歴史学習の基礎を築くことができる工夫がされている。 ○全編にわたって落ち着いた色使いで、読みやすい教科書である。
Q	○古代に多くのページを割き､古代日本について興味がもてるよう工夫されている。(p. 44-47) ○古代と近代以降では、人物・事件名等の歴史用語を多く用いて詳しく述べられている｡資料はわかりやすく現代語で書かれている。	○歴史豆辞典ではその章で学んだ歴史用語を１００字で解説し､ポイントを押さえて確認できる。(p. 80) ○日本の伝統文化について多くのコラムがある。(p. 74-75) ○南京虐殺事件についての記載なし。	○学習の導入で､日本を「森の国｣｢水田の国｣｢町工場の国｣の３点で整理し､歴史学習の意義について考えさせている。(p. 2～) ○「年号→西暦早見表」が記載され、年号への関心を持たせられる(裏表紙裏)。	○｢21世紀の日本の進路」において、竹島について記述してある。(p. 272) ○コラム｢もっと知りたい｣において，神話について学習を深める｢国譲り神話と古代人｣というテーマで出雲大社について詳しく説明されている。(p. 46-47)	○序章に歴史のとらえ方を学ぶ頁があり､時代の表し方､人物を通しての歴史の見方など､自学生かすことができる。(p. 7～24) ○見開き２ページごとに｢まとめにチャレンジ」が設けられ、キーワードを使ってまとめる課題が設けられている。(p. 79)	○神話と大和朝廷の始まりを関連付けて記述し、神話についてのコラムがある。(p. 44～) ○コラム「外の目から見た日本」で日本人の良さに気づくようにしている。(p. 180-181, 276)	○古代と近代以降で人物・事件名を多用して記述し、資料は現代語訳でわかりやすい。 ○古代と近現代に重点を置いており、日本古来の文化の独自性と、近代以降、独立が維持されたことについて考えられるよう工夫された教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（歴史的分野）　No.　4

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
R	○ＡＢ判で写真､図表等が大きく見やすく、近代以降は、人物名、事件名等を多く用いて詳しく述べられている。(p.228-229) ○見開き２ページを１タイトルとして､全８５タイトルで構成されており､半分を近現代が占めている。	○各章始めに学習する範囲を年表で示し、章末には年表や地図を使ったまとめの学習欄を設けている。(p.97) ○各章始めに、その時代を代表する船を紹介し、一貫したテーマで歴史の流れを掴めるようになっている。	○コラムで多くの人物を取りあげており、人物を通してその時代の特徴が捉えられるよう工夫されている。(p.150,163)	○竹島についてのコラムで､編入の経緯と韓国に不法に占拠されている現状について記述されている。(p.173,273) ○石見銀山について「石見銀は､東アジアの交易でも信用の高い通貨」と紹介されている。(p.87)	○見開き２ページ毎にキーワードを用いてまとめる課題と､章末にはその時代を総括して話し合う課題が設けられている。 ○歴史学習最後の１０大事件選びによって歴史を大観し､伝え合う学習ができるようになっている。(p.279-280)	○日本の成り立ちについて詳しい記述があり、コラムを用いて日本の宗教観や神話について詳しく扱っている。(p.38,50-51) ○日本の文化、芸術について、その良さに気づくよう文章が工夫されている。(p.49,77)	○歴史上人物が数多く取り上げられている。 ○見開き２ページを１タイトルとして、全８５タイトルで構成され、余裕のある構成となっている教科書である。
S	○Ａ版で史料写真や絵が大きめで見やすく､それについて過剰な説明文がない。(p.89) ○総ページ数が３２３と多く､見開き２ページを１単位時間として１２０タイトルで構成されている｡うち半分を近現代が占めている(特に第二次大戦についての記述が充実)。	○時代区分ごとの学習課題を設け、年表や地図を使ったまとめができるようにして、時代の特色をとらえるよう工夫されている。(p.11,54-55) ○従軍慰安婦について若干の記載がある。(p.281)	○小単元のタイトルに興味・関心がわくような独特の表現がある。(p.248) ○火おこしや綿から糸を紡ぐことに挑戦するという実験・実習等のページがある。(p.31,168)	○「竹島の領有」について,島根県への編入が閣議決定されたことが欄外に記述されている。(p.199) ○実物大の石見銀が載せてあり､コラムにおいて石見銀山の開発について説明されている。(p.89,94)	○各章ごとの基礎･基本についての振り返りと時代の変化について話し合うページが設けられており､基礎･基本の定着と時代を大きく捉える見方ができるようになっている。(p.142-143)	○教科書の終末に１９ページにわたる年表を設け、歴史の流れをとらえられるよう配慮されている。 ○民衆の目から見た歴史の記述が多く，民衆史について考えられるよう工夫されている。(p.101)	○重要語句が太字で記載されていなく、やや読みにくい。 ○世界の動きについての年表が詳しく記述され、日本の歴史と世界の動きとを関連づけて学べるよう工夫されている教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（公民的分野）　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○ＡＢ判の紙面で、図表、写真等の資料が豊富である。また、写真や図に説明がついており、理解しやすい。(p. 36-37) ○見開きを活用し、対照となる複数の資料から社会的事象について考えるための工夫がされている。(p. 9-10)	○地理と歴史的分野と関連づけて思考することができるように、マークが示してある。(p. 16, 20) ○見開き２ページを１単位時間の構成として、学習課題からまとめまで構造的に示してある。(p. 8-9)	○各章のはじめに、学習内容に関わる身近なテーマが取り上げられており、作業やシミュレーションを通して学べる工夫がされている。(p. 34-35) ○「公民にアクセス」「公民にチャレンジ」では、内容への理解や関心を深める工夫がされている。(p. 83)	○竹島問題について「日本固有の領土」「不法に占拠」と本文に記述され、特設ページで領土問題の経緯や国際司法裁判所への付託等について記述されている。(p. 171, 195-196) ○石見銀山遺跡について、地域住民の保存活動や市内の小・中学校の世界遺産学習が紹介されている。(p. 23)	○「公民にチャレンジ」のコーナーがあり、個人やグループで作業や話し合い活動を行って、本文での学習を深められるよう工夫されている。(p. 49) ○終章ではレポート作成について課題設定、調査方法、まとめまでの事例や方法が詳細に示してある。(p. 206-212)	○各章のはじめの作業等を受けて、章の学習後により発展的に、資料をもとに話し合ったり、自分の考えを文章化したりと多様な言語活動が設定してある。(p. 164-165) ○エネルギー政策について、新聞を比較して考察させる工夫がみられる。(p. 83)	○各所に、確認や分野関連、「効率と公正」など多彩なマークが使われており、個人やグループで、思考・判断・表現の力を伸ばす工夫がされている。 ○学習課題、豊富な資料、本文や注釈がわかりやすく、発展的な課題や社会参画を促すよう構成された特に優れた教科書である。
G	○ＡＢ判となっており、図表や写真などの資料も大きく、難しい社会科用語等は側注解説がある。(p. 101)	○章のはじめにねらいを示し、見開き２ページを１単位時間で構成されている。学習課題とふりかえりもわかりやすく示されている。 ○本文の脚注に数字が示してあり、赤は説明と青は図表で区分されている。(p. 108)	○各章の導入部分に、災害復旧のボランティアや模擬裁判などの中学生が学ぶ姿を取り上げ、そこで興味・関心を高める工夫がされている。(p. 72) ○「公民の窓」「クリップ」のコラムで学習に関連した内容を解説することで興味・関心を広げる工夫がされている。(p. 17)	○竹島について、「日本固有の領土」「韓国が不法に占拠」「国際司法裁判所への付託」が記述されている。(p.181) ○大田市の企業から郷土に対する愛着と働く意味を考えさせる内容 (p. 155) や島根県の財政の課題がデータ (p. 109) で採用されている。	○ノートの取り方について取り上げている。自分の意見や人の発言を聴いて調べたいと思ったことを書くなど、自学の視点が示してある。(巻頭4) ○終章には、自分の指針を示す「未来への私の約束」を作成する学習が設定されている。(p. 207-214)	○「言葉で伝えあおう」では、ディベートやプレゼンテーション、ポスターセッションなどの活動の手順を示し、思考力・判断力・表現力をつける工夫がされている。(p58-59, p. 114-115)	○学習課題を提示し、知識の定着や課題解決のための資料、ふりかえりまでの構造化がされている。 ○「学び方」や資料の読み解き方を示し、読み解いた内容をもとに説明する活動を随所に取り入れているよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（公民的分野）　No.　2

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
I	○Ｂ５判ではあるが、写真や図表、用語の解説などを効果的に使用している。また、本文と側注が色分けされていて、見やすい。(p. 64-65) ○難解な語句は、解説だけでなく、その項目の背景や影響などの補足説明もされている。(p. 64-65)	○見開き２ページを１単元構成としている。１単元ごとに、学習目標が明記してあり、学習内容を理解するための視点などが側注の記号を使って示してある。(p54-55)	○イラストの生徒や教員が身近な視点を与えたり、ポイントを助言したりして、学習に取り組みやすくしている。(p. 52-53, 109) ○「効率と公正」について、学校生活で起こりうる身近な課題を取り上げて考えさせる工夫がある。(p. 21)	○竹島の記述は本文中にはない。ただ、コラムの中で、地図で竹島を示し、日本の固有の領土であることの概要を表記している。(p. 163)	○各編末に、基礎的・基本的な重要語句を書き込む課題と語句を説明する発展的な課題とがあり、自学自習に取り組む工夫がされている。(p. 98) ○「もっと知りたい公民」「深める公民」に発展的な学習内容が設定されている。(p. 186-187)	○各編の最初に、内容に関係する著名人の言葉や説明、関連写真を取り上げ、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(p. 99)	○資料や解説の紙面確保に工夫がみられるが、紙面の都合か側注などの文字のフォントが小さくやや見にくいものになっている。 ○表紙裏や裏表紙前には世界地図と現代社会の動きの年表があり、地理的分野や歴史的分野との関連に配慮されている教科書である。
K	○ＡＢ判になっており、図表、写真等の資料が大きく掲載されている。また、本文と資料の配置が一定で見やすい紙面となっている。(p. 6-7) ○理解が難しい用語や文中はイラストや側注解説を用いて説明されている。(p. 18)	○本文の文中に、側注の写真や資料の番号だけでなく、憲法の条文や関連のページ数等が記載されて、わかりやすい構成になっている。(p. 78-79) ○主権者として参画するためのコラムが設定されており、説明だけでなく、携わる方々の声を取り上げている。(p. 7)	○各時の導入の「クローズアップ」では、福山雅治の楽曲「家族になろうよ」など最近の話題や身近な話題を学習内容にそって取り上げている。(p. 18) ○巻頭３に、実生活と公民的分野の学習のつながりがわかりやすく記載されており、意欲的に取り組める工夫がある。	○本文に、竹島について「韓国が不法に占拠している」や「くり返し抗議している」と詳細に表記されている。また、側注には編入の経緯やサンフランシスコ平和条約についての記載もある。(p. 168-169)	○「トライアル公民」では、「対立と合意」や「効率と公正」等の関連を示しながら、ロールプレイング、ディベートなどの公民の基礎的な技能を身につけ意見をまとめたり話し合ったりして、学習内容をさらに深められるよう工夫してある。(p. 26-27, 96-97)	○ネット選挙やメディアリテラシー(p. 63)や18歳選挙権（p. 100）マイナンバー制度（p. 151）など社会参画のための最新の情報を掲載している。 ○導入では大きなイラストがあり、変化の様子の読み取りや考察ができるようになっている。(p. 2-3)	○1単元時間のページは、学習課題や資料、解説が示され、終了後には確認できるわかりやすい構成となっているだけでなく、第５部でのレポート作成に向けての課題づくりの視点が示され、レポート作成を進めやすい配慮がされている優れた教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（公民的分野）　No.　3

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
Ｏ	○ＡＢ判で、図表や写真等の資料が多く掲載され、複数の資料から社会的事象を考えるための工夫がされている。(p. 48-49) ○本文に関連して学習内容の理解を進めるための補説コラムなどの情報を豊富に配置している。 (p. 15)	○１単位時間のページは、学習のきっかけや追究の中心資料、学習目標が示される構成となっている。(p. 48-49) ○内容のまとめでは学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、因果関係を説明したりする活動が毎時間設定されている。 (p. 80-81)	○各編の導入にイラストを用いて課題を考える課題が設定され、学習内容の見通しや関心・意欲がもてる工夫がなされている。 (p. 120-121) ○「公民にチャレンジ」や「公民+α」等は身近な話題を学習内容にそって取り上げられている。(p. 147)	○本文に竹島が「日本固有の領土」「韓国が不法占拠」や「サンフランシスコ平和条約で日本固有の領土と確認された」と記載されている。また、側注には「国際司法裁判所に訴えて平和的に解決すること」が記述されている。(p. 179)	○毎時間、学習課題やキーワード、学習の確認と活用が明記されており、自学自習に取り組める工夫がされている。(p. 16) ○終章はレポート作成を通じて「持続可能な社会」の実現に向けた課題設定の例や考察、まとめ方を詳細に整理してある。 (p. 205)	○東日本大震災については、「持続可能な社会」の形成の観点に基づいて、エネルギー問題や防災について理解を含めるコラムがもうけられている。 ○学習への理解が深まる具体的な作業学習が多数提示してある。 (p. 67)	○学習課題や資料、学習の確認と活用により、学習内容が整理しやすい構成となっている。また、本文に関連した資料、補説コラムなどの情報が豊富に設置されており、ものごとの考え方や情報の読み取りなど技能を応用することができるように工夫された教科書である。
Ｑ	○Ｂ５判になっており、写真や資料が精選されている。本文も簡潔にまとめられ、社会的事象を整理してとらえられるよう配慮されている。(p. 6-7) ○理解が難しい用語や文章は側注解説がなされている。(p. 44)	○一単位時間のページには、学習の課題が示され、終了後には「ここがポイント」として内容のまとめが示される構成となっている。(p. 7) ○章のまとめでは、本文中のゴシック体で表記された重要語句が整理され、400字でまとめる発展の課題も用意されている。(p.56)	○「もっと知りたい」や「ミニ知識」で学習に関連した内容を、資料をもとに解説することで興味関心を高める工夫がされている。(p. 26-27) ○章や単元のはじめに、内容に関連した歴史上の人物等がとりあげられている。 (p. 64, p. 88)	○竹島は、北方領土と併記。(p.145)「重大な領土問題」や「韓国が不法占拠している」と記述されている。また、特設のページ(p.149)には、竹島問題の経緯や解決について記述されている。さらに、裏表紙に「わが国の領域」として、竹島の写真と概要が記されている。	○章末の「学習のまとめ」で、重要語句を確認する、字数制限をつけて課題をまとめるといった発展的な学習や自学自習ができるコーナーが設けられている。(p. 36) ○レポート作成やディベートのやり方が具体的に示してあり、課題に取り組みやすい工夫がされている。 (p. 184-192)	○「もっと知りたい」で国連の役割やＰＫＯ活動などについて詳細な記載があり、国際協調や国際平和について考えさせる資料を取り上げている。(p. 166)	○学習課題と資料、まとめのポイントで整理しやすい構成となった教科書である。 ○各章末で重要語句を確認する、字数制限をつけてまとめるといった発展的な学習や自学学習ができるコーナーが設けられるなど工夫された教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

社会科（公民的分野）　No.　4

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
R	○AB判になっており、見開きページあたりの図表、写真等の資料が大きく掲載されるとともに、事象や資料に対する説明が詳しくなされており、広く知識を身につける工夫がされている。(p.18、19) ○学習内容に関連した条文や法令、条約、または側注解説を載せ、生徒の理解を促している。(p.14、50)	○一単位時間のページは、学習のきっかけや追究の中心資料学習目標が示され、終了後にはまとめができるような課題を設ける構成となっている。(p.12-13) ○内容のまとめでは学習内容の確認を行って知識の定着を図ったり、因果関係を説明したりする活動ができるよう工夫されている。(p.100-101)	○巻頭の「なぜ公民を学ぶのか」では15歳からの自分の過去・現在・未来シートを考えさせ、公民学習と自分との関わりを示している。(p.2-5) ○各章のはじめにある「法の入り口」「経済の入り口」などで、身近な問題を取り上げ、自分の意見を記述できるような活動が設定されている。(p.44)	竹島が「固有の領土」であることがp.177の本文に、竹島問題の経緯が脚注に記されている。また、特設ページに「アシカ猟の写真」や「1963年の朝日新聞の天声人語」を掲載している。(p.178-179)口絵(11)でも「竹島の日」について記述している。	○「やってみよう」はそれまで学んできたことをもとに、自分で考えて判断する、説明するなどの課題が設定されている。(p.151) ○最終の「社会科のまとめ」では「持続可能な社会を築くための国づくり構想」をテーマに内閣総理大臣として政策提案のレポートを作成する学習を設定している。(p.209-215)	○東日本大震災について、被害の実態や郷土愛について記述され、別の見開きページにも国民の絆、世界の絆の視点で具体的な事例をあげて記載されている。(p.19、194)	○巻頭の「なぜ公民を学ぶのか」を受けて、自分とつなげて考えさせる課題設定がみられる。 ○１単位時間のページが、学習課題を示し資料・解説から内容を理解させるだけでなく、さらに深化させるために、説明や調べるなどの課題を設定するなど工夫された教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

地図　No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○ページ数としては、他社と大差ないが、資料的には、かなり量が多い。 ○歴史的分野や公民的分野と関連した資料が多く掲載されている。(p. 98, 136)	○日本全体や世界全体の資料は質･量ともに充実している。 ○資料さくいんもあり、見やすくなっている。(p. 178)	○写真資料を多用することで、視覚的効果を上げている。 (p. 18)	○竹島については、別枠で５万分の１の縮尺で地図が掲載されている。また、日本周辺の地図では竹島の航空写真とともに日本固有の領土であることや韓国が不法占拠していることの記述がある。(p. 83, 184)	○基本資料やテーマ資料などが、教科書と対応しており、合わせて活用することによって力をつけることができる。(p. 26)	○「ジャンプ」マークによって、複数の資料を関連づけて見やすくなっている。(p. 90)	○多くの資料が掲載されており、資料集としても十分に活用できる。 ○教科書や他の資料と関連させて読みとる力を育てられる優れた地図帳である。
K	○各地域の地図、資料のページともに各地の特色がとらえやすい記述や資料、グラフなど学習に必要な情報が適切に配置されている。(p. 49-50) ○歴史的分野や公民的分野と関連した資料が多く掲載されている。(p. 99)	○地図帳の見方や使い方が具体的にわかりやすく示してある。 (p. 6)	○随所に鳥瞰図が取り入れられていて、各地域の特色を立体的にとらえることができる。(p. 25-26)	○竹島については、日本全図の中に、尖閣諸島や国後島とともに写真入りで掲載されている。 (p. 78-80, 176) また、日本固有の領土であることや韓国が不法に占拠していることの記述もある。 p. 88 には別枠で地図が掲載されている。	○「やってみよう」のコーナーで、興味をもって自学ができるような工夫が施されている。(p. 8)	○関連のある資料のあるページを示し，探しやすくしている。 (p. 93, 143)	○地図が見やすく、資料のページとともに各地の特色がとらえやすい。また、「地図を見る目」や「やってみよう」などの課題も示され、生徒が主体的に学ぶことができるよう工夫された、特に優れた地図帳である。

選　定　に　必　要　な　資　料

数学科　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○説明を補う内容として「ふせん形式の図解」を設け、視覚的に理解しやすいよう工夫されている。 （１年p. 19） ○各節は、「例」「たしかめ」「問」「もっと練習！」で構成されており、スモールステップで学習できるよう配慮されている。 （１年p. 39）	○１年「平面図形」では、学習過程を通して基本的な用語や記号を必要に応じて学ぶことができるよう、第１節に「図形の移動」を配列している。 （１年p. 142） ○「素因数分解」を第２章「平方根」の中に配列することで、「根号をふくむ式の計算」で素因数分解を利用しやすくしている。 （３年p. 46-47）	○関数の考え方のよさや有用性を感じられるよう、１年「比例と反比例」の導入問題では、身近な生活場面での出来事を導入問題として扱っている。 （１年p. 104-105） ○身近な生活場面の問題である自転車の制動距離やソーラーパネルの話題などを扱い、興味・関心が喚起されるよう配慮されている。 （３年p. 110, 185）	○「学び合い」のページでは、右ページ始まりとすることで、すぐに考え方の例が見えないような工夫がされている。 （１年p. 45, ２年p. 103, ３年p. 141） ○連続的な変化をパラパラ漫画のように示すことで、視覚的に捉えやすいように工夫されている。 （１年p. 177-205, ２年p. 93-117, ３年p. 99-115）	○本文中の「まちがい例」では、典型的な誤答例を取り上げ、「まちがいなおし」では、正しい解答例を自分で確認できるようにまとめている。 （１年p. 91, 279） ○小学校の復習が個人でできるよう、「巻末問題編」では、「算数のふりかえり」まとめ編・たしかめ編を設けている。 （１年p. 228-235）	○ノートの効果的な活用例を示し、思考力や表現力などが育成されるよう配慮されている。（１年p. 50-51） ○２年巻末には、「三角形と四角形」で使う、「図形の性質発見器」が添付されている。（２年p. 229）	○各節は、「例」「たしかめ」「問」「もっと練習！」で構成され、スモールステップでの学習ができるよう配慮されている。 ○３年間の学習のつながりを確認し、自学自習ができるよう、３年生の巻末には、「学びをつなげる」という見開きページを設け、数学の系統性を示している。学習者が使いやすい優れた教科書である。
B	○習熟を図るための練習問題を複数ページ設け、基礎・基本の問題とやや発展的な問題を分けることで、練習しやすくかつ内容の定着が図れるよう配慮されている。 （１年p. 32-33） ○基本的に見開き２ページを１つの小節とすることで、内容を簡潔にまとめ、学習の流れを確認しやすくしている。 （２年p. 70-71）	○例題や解き方を学習した後に問題を解くという構成ではなく、実際に問題を解きながら、その解法や内容について理解を深めていくという構成となっている。 （１年p. 78-79） ○「学習のめあて」がこまめに示してあり、目的意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。 （１年p. 22）	○各章の冒頭のページの写真や文の構成等を、視覚にうったえるようなレイアウトや内容とすることで、興味・関心を喚起するよう工夫されている。 （１年p. 95, ２年p. 177） ○章末コラム「社会にリンク」を領域ごとに１ページ設け、さまざまな職業や社会の仕組みと数学とのつながり、数学が社会で生かされている例などを示している。 （１年p. 58）	○１年「平面の図形」では、「移動と作図の利用」の節が設けてあり、思考力・表現力を高められるよう配慮されている。 （１年p. 186） ○教科書中に作図用のスペースを十分にとることで、教科書にかき込み（作図）がしやくなっている。 （１年p. 184-185）	○章末には「もっと数学」のコーナーを設け、発展的な数学の学習を促すような工夫がされている。 （３年p. 129） ○練習問題の横に「プラスワン」の問題が用意されていて、自学を促すような工夫がされている。 （１年p. 145）	○各章の扉の写真は、学習内容を連想させるものを用い、学習に期待感を抱かせるものとなっている。 （２年p. 177） ○途中の計算式や作図の補助線が教科書にそのままかき込みながら学習が進められるよう工夫されている。 （１年p. 32, 184）	○数と式及び図形領域の練習問題では、途中の計算や作図の補助線が描きやすいよう、行間及び問題間のスペースが確保されている。 ○章の扉と章末の「社会にリンク」、あるいは巻末の読み物のつくりなど、数学の有用性を大切にしたよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

数学科　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
E	○数と式領域では、「計算力を高めよう」という基本問題を設け、技能を確実に習得できるよう工夫されている。 （１年p. 35, 55） ○メモ書き風の囲みを設け、操作をイメージ化したり、説明を補ったりするなど、理解を助けるよう工夫されている。（１年p. 78）	○章の途中に「深めよう」や「クローズアップ」などを設け、学習した事柄を深めたり広げたりできるよう工夫されている。 （１年p. 59, 71） ○各節の終わりでは、２人の生徒のイラストキャラクターが会話をすることで、生徒の疑問や考えに沿って、次の節につなげられるよう配慮されている。 （１年p. 42）	○立体の投影図、多角形の外角の和、三平方の定理の説明をパラパラ漫画で視覚的にわかるよう工夫されている。 （１年p. 209−229, ２年p. 117−137, ３年p. 195−233） ○「クローズアップ」では、「０で割ること」「反比例なのに比例定数？」など、生徒の抱く素朴な疑問などを扱っている。 （１年p. 46, 142）	○巻頭には、前学年の内容をもとにした問題を使って、「数学で使われる考え方（類推、帰納、演繹）」を設け、数学的な見方・考え方を紹介している。 （全学年p. 8） ○表現力を高めるガイドや発展的な課題を設け、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。 （１年p. 259）	○各領域の前に「ふりかえり」を設け、前学年までの学習内容を復習・確認できるよう配慮されている。 （全学年p. 10−11） ○各学年の巻末問題「□年の復習」では、基礎的・基本的な問題は問題番号に印がしてあり、個に応じた学習ができるよう配慮されている。 （１年p. 278−284, ２年p. 223−228）	○章別の爪をすべてのページに設け、学習内容を探しやすいよう工夫されている。 ○「空間図形」の冒頭に、仁摩サンドミュージアムの写真を掲載している。（１年p. 195）	○数と式の領域では、基礎的・基本的な計算力の習得のため、「計算力を高めよう」という練習問題を設けている。 ○巻末の「さらなる数学へ」「表現する力を身につけよう」に表現力を高めるガイドや発展的な課題を設け、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされているよい教科書である。
G	○解答を２種類示したり、丁寧な説明がしてあったりして、自ら学習に取り組むことができるよう配慮されている。（２年p. 24） ○数と式領域の例題では、色矢印を使って、式変形の根拠を１行１行丁寧に説明することで、発達の段階や個人差への配慮としている。 （１年p. 36, 76）	○各章の冒頭に、「学習をする前に」が設けられ、既習事項の確認とこれからの学習への準備が図られるよう配慮されている。 （１年p. 94） ○数学用語の説明にはクリーム色を、定理や重要事項には薄緑色を文章全体の背景につけることにより、大切な事柄が一目でわかるよう工夫・構成されている。 （１年p. 172）	○実生活の中で活用されている数学の内容や興味を抱きそうなトピックなどを取り上げ、興味・関心を高めるよう工夫されている。 （３年p. 163, 188） ○３種類のキャラクターを使いわけ、基本的な内容から発展的な内容について助言を与え、学習に取り組みやすくなるよう配慮されている。 （１年p. 104−105）	○巻末には、「数学で大切にしたい考え方」として、類推的、帰納的、演繹的な考え方を具体的な問題を通して紹介している。 （１年p. 262−263, ２年p. 200−201, ３年p. 238−239） ○「みんなで数学」では、複数人で学習できるような題材を取り上げ、思考力・表現力を高められるよう工夫されている。 （１年p. 82−83）	○章末の練習問題である「章の問題」には、各問題が４つの観点別に自己評価できるようになっており、各自で復習・確認できるよう配慮されている。 （１年p. 54−55） ○各章末にある「学習のまとめ」では、重要な内容をまとめてあるだけでなく、書き込みながら確認できるよう工夫されている。 （３年p. 167）	○２、３年巻末には、ノートに貼ることのできるグラフ用紙が添付されている。 （２年p. 247, ３年p. 291） ○３年巻末の「ひろがる数学」では、中学の学習内容をさらにすすめたものを紹介することで、数学の世界の広がりを伝えている。 （３年p. 252−253）	○１年巻末には、カラー９ページを使って、「小学算数のまとめ」を掲載し、１年生の学習内容と関連づけながら復習・確認できるようにしている。 ○解答を２種類示すなど、いろいろな考え方について言及してあり、自らの考えで学習に取り組むことができるよう配慮されているよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

数学科　No.　3

記号	選定に必要な資料の観点						総　括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
M	○全学年に別冊《MathNavi》がついており、既習事項の確認や予習課題、活用問題としても使うことができるよう工夫されている。 ○基本的な内容について、「例、例題」「問」という細かいステップで学習することで、発達の段階や個に応じた配慮がなされている。（２年p.41-42）	○基礎的・基本的な内容を扱う、「例」「例題」にはタイトルをつけ、学習内容を明確にするよう工夫されている。（１年p.70-72） ○関連する既習事項を「ふりかえり」として掲載することで、３年間を通して繰り返し学び直せるよう工夫されている。 （１年p.170, ２年p.47, ３年p.78）	○学校生活での出来事など、身近な場面設定がされており、生徒の興味・関心を高めるような題材を取り上げるよう配慮されている。（２年p.118） ○「円周角の定理発見ディスク」など操作活動に利用できる付録を巻末に添付し、興味・関心をもって学習できるよう工夫されている。 （３年p.263-267）	○「見方・考え方」で、身につけたい数学的な見方・考え方のポイントを示している。 （２年p.143） ○「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」を設け、思考力・表現力を高められるよう配慮されている。 （１年p.29, ２年p.91,114）	○各章末の「基本のたしかめ」では、学習内容とその学習ページが示してあり、基礎的・基本的な学習内容を各自で確認・復習できるよう配慮されている。 （１年p.50, ２年p.144） ○巻末「数学広場」や別冊《MathNavi》では、個人の興味・関心に応じて多様な活用問題に取り組むことができるよう配慮されている。 （１年p.239-259）	○巻頭で教科書の使い方、学習の進め方やノートの取り方など例やポイント等を具体的に示して助言している。 (全学年p.4-11) ○１年「空間図形」の導入には、仁摩サンドミュージアムの航空写真が掲載されている。 （１年p.166）	○練習問題や習熟度に応じた内容をまとめたものを別冊にすることで、個々の興味・関心や技能に応じた学習を進めることができるよう工夫されている。 ○「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」を設け、表現力の育成と協働的な学びになるよう配慮されている優れた教科書である。
N	○学びを導くキャラクターが登場し、個に応じて学習がすすめられるよう工夫されている。（２年p.67） ○「ふりかえり」では、本文中の事柄と密接に関係する既習事項の学習ページが示され、復習できるよう配慮されている。 （１年p.37）	○巻頭に前学年の基礎的・基本的な内容の問題「クイックチャージ」を設け、学んだことを復習・確認したうえで、学習をすすめることができる構成となっている。 （２年p.4-13） ○表や図、式だけでなく、色分けを有効に使うことで、理解を促すよう工夫されている。 （１年p.176,195 ２年p.105,107）	○各章の導入では、見開き２ページを使って身近な課題が提示され、その課題をもとに学習が展開されるよう工夫されている。 （１年p.110-111） ○巻末の「数学探検」では身のまわりにある数学について話題を提供し、興味・関心を喚起するような内容となっている。 （１年p.225-238, ２年p.175-186）	○「やってみよう」では、言葉や式で表現したり、読み取る力を伸ばしたりするため、根拠や考え方を問う問題を扱い、数学的活動の充実を促すよう工夫されている。 （１年p.93） ○成り立たない例を考えさせる課題や、理由を説明させる課題を取り上げることで、説明することや判断する機会を増やす工夫がされている。 （１年p.53,177）	○「確かめよう」「基本問題」「章の問題A、B」「チャレンジ編」等、難易度を考慮した問題が豊富で、チャレンジ編にも例題を載せるなど習熟度にも配慮している。 （１年p.79,81-83, 239-267） ○３年巻末「ひろがる数学の世界」では、中学の学習内容をさらにすすめたものを紹介することで、数学の世界の広がりを伝えている。（３年巻末）	○表紙裏に、仁摩サンドミュージアムの写真が大きく掲載されている。 （１年表紙裏） ○「問」の中で、少しタイプが変わる問題や難易度が高くなる問題には印をつけ、注意を促す配慮がされている。（３年p.20）	○巻頭に前学年の基礎的・基本的な内容の練習問題「クイックチャージ」を設け、学んだことを復習・確認したうえで、学習をすすめることができる構成としている。 ○本文の記述は「例」と「問」を中心としたシンプルな流れで学習内容が整理されており、理解を促す配慮がされているよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

数学科　No.　4

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
Ｏ	○基本的に見開き２ページを１つの小節とし、学習の流れが確認しやすくなっている。 （２年p.100-101） ○本文の「問」や節末の「基本の問題」は、「例」と同程度の問題となっており、基礎的・基本的な内容を確実に定着できるよう配慮されている。 （１年p.45,49）	○すべての章の直前には復習問題のページが設けてあり、既習事項の確認ができる構成となっている。 （１年p.57） ○例・例題の「解答例」だけでなく、「問」にもノート形式の記述を用いることで、ノート整理や考えをまとめる際の参考となるよう工夫されている。 （１年p.231, ２年p.159, ３年p.119）	○章の扉にある導入問題では、中学生等が考える場面を提示し、より身近な課題として学習に入ることができるよう工夫されている。 （３年p.72-73） ○「生活への利用」や「深める数学」が、各章末に設けられ、その章で学んだことを深めたり活用したりすることで、興味・関心を高められるよう工夫されている。 （１年p.118）	○巻頭の「数学の学習で大切なこと」では、考えを伝え合うことについて「数学の言葉」を積極的に使うことなど、具体的なポイントが示されている。 （１年p.7） ○誤った考え方を提示し、その考えが正しくない理由を説明させることで、理解を深め、思考力・表現力を高めることができるよう工夫されている。 （２年p.173）	○巻末「数学マイトライ」のＢ問題では活用問題を取り上げ、思考力・判断力・表現力の育成ができるよう配慮されている。 （１年p.277） ○節末問題「基本の問題」と章末問題「章の確かめ」では、各問題が４つのどの観点に主にかかわる問題かを明示し、各自で自己評価できるようにしている。 （１年p.49,54）	○巻頭で教科書の使い方やノートの取り方など例やポイント等を具体的に示して助言している。 （全学年p.4-8） ○３年裏表紙「数学の歴史」では、数学史だけでなく、多数の数学者の顔が掲載されており、興味・関心が高まるよう工夫されている。	○中学生のキャラクターが数学用語を使って表現する場面などを示すことで、言語活動充実のための学習につなげられるよう工夫されている。 ○巻頭の「この本の使い方」「数学の学習での大切なこと」「ノートの工夫」が具体的に表記してあり、学習の手助けとなるよう工夫されているよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

理科　No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○「？課題」に対する結論を「！まとめ」として明示し､つまずきやすい内容には、「例題・練習・確認」や丁寧な解説があり､基礎基本が定着できる工夫がなされている。 ○「学びを活かして考えよう」「学んだことをつなげよう」を設定することで､内容の理解をより深められるように工夫されている。（１年 p.128）	○各章の冒頭と章末に「before & after」を設け､生徒が自己の考えの変容を自己評価できるように工夫されている。 ○探求を深め、より思考力や表現力を高める必要がある場面では､具体的な話し合い活動を提示するなど、丁寧な記述説明がなされている。 （１年 p.81-83）	○導入部分においては写真を大きく取り上げ、興味・関心を高めるものになっている。 （１年 p.18-19） ○「科学で GO！」「ニッポンの科学」で、日常生活や社会と学習内容との関連を多く示し､学習意欲が高められるよう工夫されている。 （１年 p.60-61）	○全学年､巻頭に探求の流れ･レポート作成の方法･考察の仕方が丁寧にまとめられている。 ○２年 p.57 の「科学で GO！」では、島根県のたたら製鉄、１年 p.263 の巻末資料では隠岐ジオパークにふれ､日常の生活や地域の文化に関する内容を解説している。	○章末の「チェック」単元末の「学習内容の整理」「確かめと応用」など学習内容の振り返りが家庭でもできるよう工夫されている。（１年 p.62-66） ○単元末には「学びを広げよう-自由研究-」と「科学の本だな」が設けられており､興味関心を広げられるように工夫されている。 （１年 p.67）	○全学年、巻末にペーパークラフトが付いており、立体的に見ることで、学習内容がより理解しやすくなるよう工夫されている。 ○ＩＣＴ機器の活用を示すマークが入っており、より理解しやすくするための工夫がなされている。 （１年 p.111）	○全学年、巻頭に探求の流れ・レポート作成の方法・考察の仕方が丁寧にまとめられている。３年間を通じて共通の学習の流れになるように工夫されている。また、じっくり実験に取り組む題材を学年で一つに絞りこむことで、探求を深め思考力や表現力をより高めていけるよう工夫された質の高い優れた教科書である。
B	○単元の最初にこれまで学習した内容とこれからの学習内容が見開き 2 ページにまとめてあり､学習の見通しが持てる。 ○学習課題が「○○は何だろうか？」等の疑問形になっており､生徒が問題意識を持ちやすい表現になっている。	○それぞれの単元の終わりに終章「学んだことを生かそう」を設け、生徒が自ら実験・観察方法を考え､結果から考察する問題解決学習を取り入れている。 ○3 年 p.17 の基礎操作では､平行線の引き方がイラストで示してあり､生徒がつまずきやすい内容についてわかりやすく解説してある。	○２年 p.16 の「やってみよう」では､カルメ焼きの作り方が写真入りで丁寧に紹介されており､生徒の興味･関心を高めるのに効果的である。 ○章末問題にクイズ形式が取り入れられており､楽しみながらまとめができるように工夫されている。	○３年 p.39 の「プロフェッショナル」では､介護の仕事と力の関係を取り上げ､意外なところで理科の内容が生かされていることを知ることができる。 ○1 年 p.284 には、ジオパークが掲載してあり､隠岐の地質等について解説がある。	○２年 p.84 の「やってみよう」では、身近な動物の観察方法やまとめ方の例が示してあり､自主学習ができやすいように工夫してある。 ○教科書の最後の「課題研究･自由研究にチャレンジしよう」では､自由研究の仕方やまとめ方実践例が取り上げられ､発展的学習に取り組みやすくなっている。	○教科書の巻末資料は、各学年共通した内容と、学年独自の内容が掲載され、実験やデータ処理に生かすことができる。 ○実験・観察の注意事項が目立つ色で、また簡潔に書いてあり、わかりやすい。	○日常の現象や出来事を理科に結び付け、生徒の理科に対する意識を高める工夫がある。 ○本文、イラスト、写真のバランスがよく、読みやすく構成されているよい教科書である。

選　定　に　必　要　な　資　料

理科　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
E	○単元の導入では､関連する既習事項の確認から始まり､復習ができる。また、これから学ぶことへの関連を持たせ､内容の系統性を意識できるよう工夫されている。（１年 p. 5-6） ○一つの課題の学習の後に｢問い｣を設け、思考力･表現力を高められるよう工夫されている。（１年 p. 33）	○課題に対して実験・結果・考察・まとめ・問い（活用）の探求の基本的な流れが示してあり､学習を効果的に進めていけるように配慮されている。 ○「話し合ってみよう」として、活用力や表現力を高められるよう工夫されている。（１年 p. 17）	○｢科学を仕事に活かす｣として、学習内容と職業の関連を示し、職業への関心と学習意欲が高められるよう工夫されている。（１年 p. 68） ○「チャレンジ」としておもしろい観察･実験やもの作りを入れ、生徒の興味･関心をより高める工夫がされている。（１年 p. 106）	○１年 p. 59 の「科学の窓」のように実験を通して､身近な環境問題を捉えられるような工夫がなされている。また、日常生活と科学を互いに関連づけながら学習を進めるよう工夫されている。	○「科学の窓」｢発展｣｢自由研究｣として発展的内容も多く紹介しており､深く探求する意欲が高められるよう工夫されている。 ○単元末の｢学習のまとめ｣、｢単元末問題｣や巻末の｢まとめの問題｣で、単元や学年の復習が家庭でもできるように工夫されている。	○実験・観察の時期を考慮することで、単元の流れを自由に組み替えて実施できるように１分野（A）・２分野（B）の順で配置されている。 ○２年では「原子カード」があり、粒子概念をモデル化して考えることに有効である。	○既習事項との関係をはかりながら、日常生活と学習内容との関連が分かりやすく構成されている。課題解決の基本的な流れを大切にしながら思考力を高められるよう工夫されている。興味・関心を高められるよう工夫されたよい教科書である。
G	○１年 p. 20, 57 のように､学習した内容を表や図にまとめ､視覚的にとらえやすくするための工夫がされている。	○１年 p. 173 では､多くの植物の形状を提示することで､生徒自身が､それら相違点を見つけ､科学的な根拠に基づいて結論を見つけられるよう工夫されている。	○各学習内容に応じて用意されている｢ハローサイエンス」は、実際の生活と既習事項とを関連付ける内容となっており､理科を学ぶことの有用性を生徒が感じられるよう工夫されている。	○実験･観察のページでは､それぞれの操作方法についての目的が明確にされており、意識をもって１つ１つの操作（活動）を進められるよう配慮されている。	○１年 p. 120-125 のように､単元の終わりに｢要点と重要語句の整理｣に続く形で「基礎・基本問題」、「活用・応用問題」が用意されており､学習内容の確認復習が段階的にできるよう工夫されている。	○比較的大きな図や写真が使われている。また、グラフ等は線の色と背景の色の色調がうまく調節されている。	○写真や図が豊富であり、生徒の興味・関心を高めるとともに、学習内容の理解においてもその助けとなる。 ○実生活と既習事項とを関連付ける項目（ハローサイエンス）が多いことも、この教科書の特徴である。

選　定　に　必　要　な　資　料

理科　No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
M	○各章の初めにある、「ふり返り」では、これまでの学習内容を振り返り、生徒が既習事項と関連付けながら活動を進め、系統的な学習ができるよう配慮されている。	○１年 p. 221 の実験では、浮力の大きさと物体の体積（水深）との関係の他に、物体の質量との関係についても同様の実験を行うことで、より多くの実験結果や視点をもって考察できるよう工夫されている。	○１年 p. 125, 139, 144, 各実験では、初めから実験操作や使用する物質名を明示するのではなく、実験を行う中で、より多くの発見や気づきが生まれるよう設定され、生徒が意欲的に活動できるよう配慮されている。	○「サイエンス資料」では、中学校で行う基本的な実験観察の操作、薬品や主な物質の特性等について、写真や図を効果的に使いながら細かい解説があり、安全に正しい操作で実験が行えるよう配慮されている。	○「マイノート」は、それぞれの単元において、要点整理から総合的な問題まで用意され、学習内容を段階的に確認し復習ができるよう工夫されている。	○各単元の「学習のまとめ」や「マイノート」では、青色のシートを使うことで、要点の確認がしやすいよう工夫されている。	○実験・観察では、生徒の工夫や気づきを大切にしているものが多くあり、探究心や思考力を高められるよう工夫されている。 ○マイノートは、学習内容の確認や復習だけでなく、その後も簡易的な参考書としても活用することが可能である。

選　定　に　必　要　な　資　料

音楽科（一般）　No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
G	○「音のスケッチ」では、創作の学習内容と具体的な活動が示され、創作の学習に取り組みやすいように工夫されているが、２・３年生の内容については、取り扱う題材自体が高度である。	○テーマごとに、表現と鑑賞を関連づけて学習できるように構成されている。 ○テーマごとに楽曲が配置され、学び易いように工夫されているが、学年別の選曲にやや偏りがある。	○鑑賞教材や楽器の紹介などに３ページの見開きが使われ、一目で全体を捉えることができたり、他との比較がしやすかったりするなどの工夫がされている。	○「郷土の伝統ある音楽文化にふれる喜び」では、日本各地の中学生の活動や体験が紹介され、郷土の音楽文化を身近なものとして捉えることができるように工夫されている。	○鑑賞では、「伝えてみよう！」を通じて、自分の意図や思いを発信する活動ができるように工夫されている。	○教材の左側に「活動のポイント」が示され、指導事項と［共通事項］との関わりを確認しながら学習を進めることができるように工夫されている。	○教材をいろいろな切り口から取り上げることができ、指導者の創意工夫が生かせるよう配慮されている。
H	○創作の学習内容が「 My Melody 」と「Let‘s Create！」で示され、無理なく創作に取り組むことができる。また、生徒の学びを生かしながら発展的に取り組むことができるように工夫されている。	○歌唱、創作、鑑賞の３分野の教材をバランスよく選択できるように、教材配列が工夫されている。 ○テーマごとに楽曲が配置され、学び易いように工夫されている。また、学年にふさわしい選曲がなされている。	○教科書の中に使われている写真や絵が美しく、臨場感にあふれ、生徒の興味・関心を高めたり、豊かな感性を育てたりすることができるように工夫されている。	○日本の伝統的な音楽の歌い方や特徴を、簡易楽譜を用いて、体験的に学習できるように工夫されている。	○鑑賞教材の中の発展的学習「この頃、日本では！？」では、西洋と日本の音楽文化や時代背景の違いを比較することができるように工夫されている。	○「音楽学習 MAP」では、学習の支えとなる共通事項が「学習の窓口」として示され、それぞれの楽曲で取り扱う事項が確認し易いように工夫されている。	○教科書全般にわたって、学校現場の実情に即した教材や実践例が豊富に取り上げられている。また、内容がシンプルでわかりやすく、３年間の系統性も明確である点が優れている。

選　定　に　必　要　な　資　料

音楽科（器楽）　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
G	○各楽器の基礎的な奏法の習得のための解説が丁寧にされている。 ○「合わせて演奏しよう」に掲載されている楽曲の難易度が高く、小節数も多いため、授業で取り上げるにはやや高度である。	○各楽器の導入部分では、それぞれの楽器の基礎的な知識や奏法について、写真やイラストを使い、簡潔にまとめられている。	○既習曲や教科書で学んだ楽曲が器楽演用に編曲されており、生徒が親しみをもって取り組むことができるように工夫されている。	○箏曲「さくらさくら」の五線譜と縦譜の両方が全曲掲載されているため、生徒の実態に応じた楽譜の選択ができたり、発展的な学習を進めたりすることができるように工夫されている。	○リコーダーの楽曲を演奏する際に、やや難しい運指が同ページに掲載されているため、自学できるように工夫されている。	○「日本の楽器と音楽」では、3ページの見開きが使われ、日本の音楽史を一目で捉えることができるように工夫されている。	○幅広いジャンルの楽曲が掲載されており、指導者の創意工夫が生かせるよう配慮されている。
H	○各楽器の基礎的な奏法の習得のための解説が丁寧にされている。 ○「アンサンブル」や「名曲スケッチ」に掲載されている楽曲の旋律線が美しく、音楽的な表現の工夫がし易いように配慮されている。	○各楽器の導入部分では、それぞれの楽器の基礎的な知識や奏法について、写真やイラストを使い、簡潔にまとめられている。	○既習曲や教科書で学んだ楽曲が器楽演用に編曲されており、生徒が親しみをもって取り組むことができるように工夫されている。 ○楽曲ごとに写真が豊富に使われており、生徒の興味・関心を持続させるために役立っている。	○箏の学習に取り上げられている楽曲の難易度が高すぎず、基礎技法を確実に身につけることができたり、楽曲を演奏できる喜びを味わったりすることができるように工夫されている。	○リコーダーの楽曲を演奏する際に、アーティキュレーションの工夫やパートの役割、曲の構成といった演奏の視点が示されており、創意工夫しながら段階的に活動できるように工夫されている。	○「音楽学習 MAP」では、学習の支えとなる共通事項が「学習の窓口」として示され、それぞれの楽曲で取り扱う事項が確認し易いように工夫されている。	○学校現場の実情に即した教材が取り上げられており、内容もシンプルでわかりやすい点が優れている。

選　定　に　必　要　な　資　料

美術科　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総　　括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
D	○2・3年生の教科書が1冊にまとめられている。 ○1題材の中でも基本的な内容から発展的なものへ移行しており、上学年に向けて表現が広がったり深まったりできる内容となっている。	○1題材の中でも多様な表現方法が提示されていることで学校や生徒の実態に応じた対応ができる。 ○1題材の先頭に鑑賞作品を配置することで鑑賞から表現への移行がスムーズに行える配慮がある。	○暮らしの中に生かされている作品やそれらに関わる人々を取り上げることで美術への興味・関心を高める工夫がある。 ○「発想のヒント」や制作方法を盛り込むことで興味・関心を持続させる効果がある。	○ふりかえりのポイントが観点ごとに示してあることで、生徒自身の自己評価につなげることができる。 ○資料作品が多数画像図版で示されており、美術作品に触れる機会の少ない地域にあっては助けとなる。	○制作手順や技法画像・図版が示してあることで自宅での制作の参考となる。 ○学習で制作した作品が実際の場面で活用されている例が紹介され、美術が地域に役立っている実態を知ることができる。	○表示に工夫があり、使用する教師にとっても使いやすい。 ○作家や生徒の作品と制作コメントが多数掲載されており、親近感がわき、制作意図もよくわかる。	○教科書の巻頭に「美術を通して学ぶ大切なこと」を取り上げ、学ぶことの意義を伝え、より主体的に学習できる工夫がある。 ○1題材の中でも多様な表現を提示し、鑑賞と結びつけた工夫のある構成である。
J	○2冊で構成されており、「学習を支える資料」では授業で使える技法や様々な制作方法を紹介しており、授業後も自主的に造形活動ができる資料となっている。 ○2冊とも巻頭が「うつくしい」で始まる統一感のある構成となっている。	○原寸大で鑑賞できる資料を掲載しており、表現方法や作者の思いを読み取りやすくしている。 (2年・3年p．24-25,p. 48-49, p. 76-77) ○裏面に目次が印刷されており、教科書を開かなくても目的のページを見つけることができる。	○日本美術の素晴らしさを理解させるために「風神・雷神」を題材にした彫刻、絵画の2つの分野の作品をダイナミックに提示している。 (1年p. 22-27) ○生活と美術を関連付ける工夫があることで興味・関心が日常化される狙いがある。	○身につけたい目標がわかり、作品制作を振り返るためのチェック欄がある。 ○資料として載っている作品に作者のことばを掲載することで作品をより身近なものとしてとらえることができ、生徒自身の作品制作に生かすことができる。	○一般教養として身につけておくべき美術史を「トピック美術史」として中学生にもわかりやすく説明がされている。社会科との関連性も高い。 (2年・3年p. 92-97) ○「ともにつくる喜び」では教科を飛び出した制作を提案している。	○地域の題材である「平田の一式飾り」1年p. 19や県内出身作家の彫刻作品などが掲載されており、地域の伝統文化をより身近に感じ取ることができる。 ○道徳と関連するところがマーク化されている。	○作品を制作する手順がわかりやすく写真等を使って説明されており、制作に関しての見通しをもたせることができる。 (1年p. 16-17, 21, p. 32-34) (2年・3年p. 22-23, p. 52-53, p. 66-p67) ○道徳との関連性をもたせた題材が多い。

選　定　に　必　要　な　資　料

美術科　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
O	○３年間を通じて美術の学習を自己→生活→社会→自然環境へと広がる構成としている。また、よりその流れを明確にするため３つに分冊している。 ○３冊に分けることでより多くのページを開いて活用できる。	○学年に適した学びができる工夫がされている。１年 p. 12-13「身近なものから」から２年・３年上 p. 8-9「視点を変えたもの」へ。 ○鑑賞との出会いでは、「もっと知ろう」、「調べてみよう」と読書活動につながる提案がある。	○様々な描画材料を使った作品が掲載してあり、美術の楽しさや奥深さを感じ取ることができる。（１年 p. 8-9） ○浮世絵が和紙で印刷されており、和紙の質感や本物に近い作品鑑賞ができる。（２年・３年上 p. 23-24）	○４観点のどこをねらいとしているかが生徒や指導者にもわかりやすい。 ○日本の優れた文化の一つである漫画を絵巻物と比較させ、漫画的表現の素晴らしさを理解できる。（２・３年上 p. 32-33）	○文字のデザインにおいて日本語の特徴を生かした題材「オノマトペ」を扱うことで国語科との関連を図る工夫がある。 ○鑑賞の資料のページでは仏像の解説が掲載され修学旅行で社寺を訪れる際の参考になる。	○道徳と関連するところをマーク化（三葉のｸﾛｰﾊﾞｰ）させている。 ○物語を感じる作品を通して画面に描かれた人物について話合うことができる。 （１年 p. 20-21）	○３年間を通じて美術の学習を自己→生活→社会→自然環境へと広がる構成としている。また、よりその流れを明確にするため３つに分冊していることには意味がある。 ○道徳との関連性をもたせた題材が多い。

選　定　に　必　要　な　資　料

保健体育科　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○基本的な学習内容が精選され、妥当な分量である。 ○各章扉では、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを明示し、学習の系統性を明示している。	○文字にユニバーサルデザインフォントを使用し、キーワードはゴシック体を使用するなどして区別をしている。 ○各章の終わりに確認の問題や自己評価があり、知識の習得についての確認ができる。	○写真や、鮮明なイラストを豊富に記載したり、「保健体育クイズ」を設けたりすることで、生徒の興味・関心を高めるように工夫がされている。 ○生徒が興味・関心をもったり、生徒の科学的な理解を促したりする写真や鮮明なイラストが豊富に掲載してある。	○「やってみよう」「考えてみよう」では、自分の意見をまとめて発表したり、話し合ったり、記述したりする言語活動を多く取り上げ、思考力・判断力・表現力の育成をめざしている。（p. 25） ○今日的課題への対応が強調されている。【防災】【食育】【キャリア教育】【人権・共生】等。	○各章の初めに、小・中・高校の学習内容が系統的に示されている。 ○「他教科マーク」により他教科とのつながりを明示し、教科相互の関連を図りながら、系統的・発展的な指導が可能となっている。 （p. 112, 144）	○巻頭に「この教科書の使い方」を設け、教科書の構成を理解し、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。	○教科書のサイズが横広であり、資料も豊富である。紙面もユニバーサルデザインが使用されている、また、印刷状態も非常に良い。 ○中学生の保健体育の学習理解を促進する教材として非常に優れている。
B	○基本的な学習内容が精選され、妥当な分量である。 ○関連した内容を学習するページを示す「リンク」欄が設けられ、学習内容のつながりを意識した総合的な学習ができるように配慮されている。（p. 21） ○生涯にわたり豊かなスポーツライフを送る必要性や楽しさが、写真等の資料により、理解しやすくなっている。（口絵 p. 3-8）	○知識の定着を図るため、各小単元においてキーワードで学習内容の振り返りをしたり、各章末では重要語句や要点の再確認ができたりするように工夫している。（p. 5, 7 などの各小単元）	○紙面の図や写真が大きく、かつカラフルで、生徒の興味・関心をひくように工夫されている。 ○ページ下の「ミニ知識」や「トピックス」を設け、学習内容の興味・関心を高め、発展的な学習につながる工夫がされている。（p. 37）	○各章で関連した身近な職業が紹介されている。（口絵 p. 9） ○災害の写真について紙面を大きく使って示し、日常から実践できる具体的な備えや行動について進んで考えていけるよう配慮されている。（p. 96-99）	○各学年の章末に「学習のまとめ」として、重要な言葉についての解説や要点についてまとめ、振り返りができるようになっている。（p. 146-147） ○理科や社会科との関連や総合的な学習の時間で取り上げることができるような内容が掲載されている。（p. 82-83）	○オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、幅広い理解ができるよう、オリンピック・パラリンピックの歴史の解説や写真等が掲載され、詳しく説明されている。（口絵 p. 1-2, p. 38-44）	○ＡＢ変型のワイドなつくりにより、学習内容を補うグラフや表などが多く配置され、ユニバーサルデザインが使用されている。 ○中学生の保健体育の学習理解を促進する教材として優れている。

選　定　に　必　要　な　資　料

保健体育科　No.　2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
L	○基本的な学習内容が精選され､妥当な分量である。 ○文章は中学生が読んで理解し､納得できるよう､論理性や具体性を重視している。	○学習を進めるにあたってポイントとなる重要語句を太字にするなどの工夫がなされている。また、その学習項目を代表する概念がキーワードとしてまとめてある。	○教科書の使い方を説明するページを設け､学習の流れを分かりやすく示してある。 ○｢コラム｣を記載し、興味･関心を高める話題や昨今の問題が多く取り上げられている。（p. 28）	○学んだことを実際の場面に当てはめて考える課題を設け､学習内容を生活場面で生かせるよう工夫されている。 （p. 29, p. 91） ○県の課題である｢体力向上｣について、その要素を詳しく示し、体力を高める運動例をわかりやすく示している。（p. 16-17）	○中学生が抱く疑問を掲げ、課題把握、復習、生活への応用、学習の発展ができるように工夫されている。 （p. 6-7） ○考える、話し合う、調べる､発表する等の学習を「Ｔｒｙ」で示し、学びを深め、発展させることができるよう工夫されている。 （p. 111, 121）	○学習理解を進めるために図表や写真が多く使われている。また、図版の中の読み取ってほしい大事なポイントを、吹き出しにして強調するなどの工夫がしてある。（p. 42）	○前半に体育編、後半に保健編を位置づけ、そで書きの参照ページにより、体育と保健の関連性を高められるように工夫されている。（p. 6） ○本文の背景を薄黄色とし、注や図表などの補足的な部分との区別がしやすくなっている。
P	○基本的な学習内容が精選され､妥当な分量である。 ○学習指導要領の項目構成に従った構成と配列が原則であるが、細部は、内容の特性や重要度､分量を考慮し、適切な構成･配列を組み換えている。 ○各章の冒頭(p. 8-9他)に学習内容に関連した写真を掲載し､学習内容に見通しを持ちやすい工夫がされている。	○冒頭に学習の目標とキーワードが設けられており、興味･関心と見通しを持って学習できる。(p. 36) ○章末に「章のまとめ」を設け、生徒の内容理解を助けるとともに、反復的･継続的な学習を行ったり､学習したことを日常生活に活用するための意欲を持ったりできる工夫がある。 （p. 32-33）	○各章に関連する人物の名言や功績､職業（p. 9他）や資格を紹介し､学習内容と実生活との関連を実感できるようにしてある。 ○各ページには補充的な内容や発展的な内容が取り扱われている｢情報サプリ｣の欄が設けてあり,保健体育への興味･関心が高まるよう工夫されている。（p. 18-19）	○話し合いや記述､発表等の言語活動が取り入れられ､特に重要となるものには「言語」「協働」と示されている。 ○食育(p. 4-5)に関連し、｢集中力を高めたいとき｣や｢疲労回復｣をしたい等の生徒の実態に応じた食事の摂り方がイラストで紹介されている。	○発展的な学習が行えるよう､その時間に関する具体的な課題が｢探究｣として示されている。(p. 65, 137) ○口絵に、｢保健体育が好きになる･よくわかる｣(p. 3) ために興味や関心が掻き立てられるような本の紹介がイラストで紹介されてある。	○「スポーツの学び方」で運動動作を言語化するための「ＰＤＣＡサイクル」が明記されており、これを活用した「言語活動の充実」への発展が期待できる。 （p. 138）	○章のまとめとして「用語の確認」｢基礎の完成｣｢活用の問題｣｢生活への問題｣と段階を踏んだ問題が記載されている。 ○中学生の保健体育の学習理解を促進する教材として非常に優れている。

選　定　に　必　要　な　資　料

技術・家庭科（技術分野）　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○関連箇所へのリンクを示しながら、基礎的・基本的な知識・技能が習得できる内容になっている。(p.100) 「生活に生かそう」を設け、実生活での活用が図られている。(p.95) ○大きさがＡＢ版であり、図・表・参考資料などが大きく掲載され情報量が多い。	○各内容の実習例が見開き２ページを多用して、手順や難易度、工夫点を含めて示されている。(p.74-77) ○各内容が「１章　知識」「２章　設計製作」「３章　評価活用」と統一され、余白に検索しやすい爪が設けられている。	○内容のまとまりごとに「調べてみよう」「やってみよう」などの課題が示され、学習の導入時の興味・関心を高める工夫がされている。 ○キャラクター設定や脚注のひとくちＱ＆Ａ、各内容のパラパラ写真など、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。	○ガイダンスにおいて、技術の学習内容と学び方が、ＰＤＣＡサイクルとの関連で取り上げられている。(p.12-16) ○各内容の最終章に「評価と活用」を取り上げ、考え方や具体のワークシートが示してある。(p.84-89)	○発展的な内容や環境・消費者・防災といった今日的課題に関わる内容には独自のマークで示してある。(p.128-130) ○内容のまとまりごとに「まとめよう」(p.21)、最章末に「学習したことを確かめよう」(p.91) などの課題が設定されている。	○キャリア教育の観点から、「技術の匠」として専門家・熟練者のコメントが掲載されている。(p.61) ○巻末に「防災手帳」を付け、技術で学習した防災・減災の内容が、万が一の時に生かせるようにまとめてある。	以下の点を中心に特に優れた教科書である。 ○写真や図などを多用して、作業手順等をわかりやすくし、また検索しやすい構成になっている。 ○技術の学習内容と他教科を関連付け、マークで示すことにより、学習の広がりが意識されている。
C	○太字の注釈を枠囲みで記載するなど、基礎的・基本的な知識が習得できる内容になっている。(p.110) ○実習例の写真が多用され、教科書を見ながら実習が進められるよう、一つ一つの工程がきめ細かく説明されている。(p.34-47)	○各内容とも実習例が多く掲載されており、使用工具まで含めた多様な写真と詳細な説明を記載している。(p.74-79) ○内容Ａ・Ｃでは、最初に簡単な実習を行い、その後に本格的な実習が行える構成になっている。(p.148-151,160-169)	○各章の冒頭に社会における関連技術の写真を掲載し、学習の導入時の興味・関心を高める工夫がされている。 ○基礎的な実習例だけでなく本格的な実習例も掲載することで、ものづくりに対する生徒の興味・関心を高める工夫がされている。(p.74-85)	○ガイダンスにおいて、人間の進歩と技術との関連について、社会的な側面や環境的な側面から取り上げられている。(p.2-8) ○各内容の最章末に、それぞれの内容と社会との関連を取り上げ、評価と活用の学習ができるようになっている。(p.86-89)	○発展的な学習として、内容ＢとＤを融合させたライントレースカーを取り上げている。(p.136-139, 248-253) ○各内容に「調べよう」と「章末問題」が設定されている。(p.91)	○取扱説明書や製品本体で見るようなマークを取り上げ、技術の学習と生活を繋げる配慮がされている。(口絵4) ○写真や図を詰め込みすぎず、余白を意識した紙面構成となっている。	以下の点を中心に良い教科書である。 ○多くの写真やイラストが細かな製作工程ごとに掲載されており、視覚的に基礎的・基本的事項を確認しやすい構成になっている。 ○座学から実習へ繋がるだけでなく、体験から学習意欲を高めるような構成場面もある。

選　定　に　必　要　な　資　料

技術・家庭科（技術分野）　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
D	○関連箇所へのリンクを示しながら、基礎的・基本的な知識・技能が習得できる内容になっている。(p. 94) ○図・表・参考資料などが多く掲載され、わかりやすい紙面となっている。(p. 84-85)	○各内容の実習例が１ページにコンパクトにまとめられ、数多く示されている。(p. 47-52) ○各内容が細かな章に分けられ、頭注により検索しやすくなっている。	○内容のまとまりごとに「考えてみよう」「思い出してみよう」「調べてみよう」などの課題が示され、学習の導入時の興味・関心を高める工夫がされている。 ○脚注に「豆知識」、頭注に「工具・用具」を設け、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。	○ガイダンスにおいて、技術の学習の目的や小学校の学習との関連、技術の進展と生活の関わりなどがわかりやすく示してある。(p. 2-19) ○各内容の最章末に「社会・環境との関わり」や「技術とわたしたち」の評価・活用について取り上げてある。(p. 84-87)	○発展的な内容や環境・安全等に関わる内容には独自のマークで示してある。(p. 105 など) ○各内容の章末には、「技術について考えよう」として、探求的な読み物が掲載されている。(p. 91)	○全内容後の終末に「技術分野の出口」が設けられ、評価・活用の観点から、技術のより良い関わり方について記載されている。(p. 244-247) ○各内容に関係した歴史年表(p. 20-21）が記載されている。	以下の点を中心に優れた教科書である。 ○写真や図が多用され、また学習の振り返りが随所に設定されている。 ○学習の関連をマークで示すことにより、学習の広がりが意識されている。

選　定　に　必　要　な　資　料

技術・家庭科（家庭分野）　No.　1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
A	○ＡＢ版で写真や図が分かりやすく基礎的・基本的な知識・技能や学習方法について詳しく示されていて、生徒が習得できる内容や分量になっている。 ○学習の始めに「考えてみよう」などの活動例が示されている。	○生徒の発達段階に合わせて内容がＢＣＡＤの順に構成され、「生活の課題と実践」が最後にまとめて示されている。 ○家庭分野のガイダンスや問題解決的な学習の進め方が示されている。（p. 8-15）	○実物大写真を用いて幼児の手足の大きさや一日に取る食品の概量が分かるようしている。 （p. 35, 37, 186） ○写真を使って事例を順番に示している。 （p. 189-190）	○調理の基礎技能が大きな写真で分かりやすく示されている。 （p. 52-55, 57） ○食品ごとに調理例や作り方が大きな写真で分かりやすく示してあり、他の事例も多い。（p. 58-79）	○幼児触れ合い体験や「生活の課題と実践」について学習の進め方やまとめ方、発表の仕方が事例を挙げて詳しく示してある。 （p. 204-211, 252-261） ○家庭分野の内容と技術分野、職業との関わりを示している。	○技術・家庭科で学んだことを発表する「創造ものづくり教育フェア」について紹介している。	以下の点を中心に特に優れた教科書である。 ○基礎的・基本的な内容について大きく写真や図を使って分かりやすくまとめられている。 ○問題解決的な学習の流れに沿って学習が進められるよう工夫されている。
C	○基礎的･基本的な内容から専門的な内容（家族形態、略平面図など）まで詳しく示されていて、説明する内容がやや多い。 (p. 8, 26, 157) ○「自立度チェック」で主体的に学習に取り組める工夫がされている。	○学習指導要領に合わせて内容がＡＢＣＤの順に構成され、「生活の課題と実践」が各内容のあとに示されている。 ○消費生活や環境について考える資料や課題が示されている。	○実物大写真を用いて幼児の手足や食品の大きさが分かるようにしている。 (p. 30-31, 69, 106) ○図や表を使って、内容が論理的に記述されている。（p. 25, 30）	○調理の基礎技能が写真で示されている。 （p. 106-108） ○調理例や実習例が多く示されている。 （p. 116-133）	○幼児触れ合い体験や「生活の課題と実践」についてイラストを用いて説明している。（p. 53, 62-67） ○持続可能な社会に向けて、フェアトレードや低酸素社会などを取り上げている。	○実習例や資料が多く、クイズにより興味・関心を高めることができる。	以下の点を中心に良い教科書である。 ○「自立度チェック」や「学習のふりかえり」により興味・関心を高め、基礎・基本の定着ができる。 ○各内容について専門的に詳しく資料や発展的な内容が示されている。

選　定　に　必　要　な　資　料

技術・家庭科（家庭分野）　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
Ｄ	○基礎的･基本的な知識･技能や学習方法について示され､生徒が習得できる内容や分量になっている。 ○学習の始めに｢考えてみよう｣などの活動例が示されている。	○学習指導要領に合わせて内容がＡＢＣＤの順に構成され、「生活の課題と実践」が最後にまとめて示されている。 ○問題解決的な学習の進め方が示されている。(p.8-9)	○実物大写真を用いて幼児の手足の大きさや食品の概量が分かるようしている。(p.22,75) ○内容ごとに写真や絵を使って事例を順番に示している。(p.25,29-30)	○調理や衣服の補修の基礎技能が写真で分かりやすく示されている。(p.77-96,99,186-189) ○食品ごとに調理例や作り方が写真で分かりやすく示されている。(p.102-123)	○幼児触れ合い体験や「生活の課題と実践｣について学習の進め方を示し､事例を多数挙げている。(p.42-49,248-257) ○地域の伝統文化やユニバーサルデザインなどを取り上げている。	○写真の事例が多く、興味・関心を高めることができる。(築地松、出雲藍染、風力発電など)	以下の点について優れた教科書である。 ○基礎的・基本的な内容について写真や図を使って分かりやすくまとめられている。 ○学習の進め方が図や記述で具体的に示してあり、分かりやすい。

選　定　に　必　要　な　資　料

外国語科　No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
A	○各ユニットで４技能を高める活動がバランスよく配置してある。 ○新出単語や基本文が基礎的･基本的なものに精選されている。また､日本語による説明が適切につけられており､提示の仕方が工夫されている。	○２・３年生では､各ユニットの最後に学び合い学習や言語活動を意識し､生徒が主体的に学習できるように工夫されている。 ○電話や道案内等の対話教材や一部文法事項の配列に３年間を見通した工夫がなされている。	○生徒が学習する内容について見通しをもつことができるように一覧表が配置してあり､各ユニットにも目標が挙げてある。 ○生徒が学習しやすいように､基本練習の部分にもイラストが配置されている。	○小学校の外国語活動とのつながりがもてるように工夫されている。 ○各学年の「Presentation」では､自分が体験したことを自分の言葉で表現し､振り返りができるように題材が工夫されている。	○デジタル教材との関連があり､生徒の自主的な学びを支援する手立てがある。 ○辞書の使い方が１年生で２回､２年生で１回学べるようになっており､調べたい単語を見つけるための手立てが写真つきで分かりやすい。	○１年生では島根を題材とした単元がある。 ○各学年の長文読解のページは、まとまった文章を読むことができ、語数も示されている。 ○英文を書くスペースが多くある。	○４技能がバランス良く育成できるように、構成と活動が工夫されている。また、基礎・基本の定着から自分の意見や考えの発信につながる内容になっている点が特に優れている。
D	○会話を重視した構成になっている。 ○音読練習のためのチェック欄が設けられている。	○３年間を見通した「My Project」を設定し､スピーチだけでなく､スキットやCMづくりなど４技能を統合した様々な活動が工夫されている。 ○各パートに目標が明記されている。	○イラストや写真が適切に配置され､視覚的に分かりやすく､生徒の興味･関心を喚起することができる。	○環境問題や､異文化相互理解等､多くの題材が取り上げてある。 ○「My Project」では学び合い学習を意識した活動があり、「Reading」では、自分の意見や感想を述べたり､話し合ったりする課題が設定されている。	○全学年に辞書を活用するページがある。 ○各学年に「英語のしくみ」が設定され、解説を読みながら練習問題に取り組むことができる。	○教科書の幅が広くなり、英文を書くスペースも確保されている。 ○巻末資料が豊富である。	○豊富な題材が取り上げられており、４技能をバランス良く育成するための活動が充実している点が優れている。

選　定　に　必　要　な　資　料

外国語科　No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1．内容、程度、分量等	2．教材の選択や構成等	3．興味・関心への配慮等	4．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5．発展的学習、自学自習についての工夫	6．その他	
E	○各学年が４つの「Chapter」で構成され、目次には、学習内容が明記されている。	○２・３年生「Talking Time」の電話の対話では、会話が絵とともに場合分けされており、分かりやすい。 ○各「Chapter」の後に「Project」を設け、自己表現活動を通して、目標を達成できるようになっている。	○１年生の教科書では点字を体感できるように立体的に掲載している。 ○絵が多く使われ、生徒の興味・関心を高めるものになっている。	○ペア、グループでの対話活動の後、話したことを英文で書く活動が随所に配置されており、コミュニケーション能力の育成に効果的である。	○「Check It Out」では、文構造について視覚的にも分かりやすくまとめられ、自学自習につながるように工夫されている。	○「Review」では、４技能が全て復習できるようになっている。 ○「Project」では、学習の過程が細やかに設定されている。	○日常で使われる会話表現等が多く取り入れてあり、「聞く」、「話す」ことから「書く」活動へつなげていく点が優れている。
F	○全学年共に「Get」の英文が短く、理解しやすい。 ○巻末の付録に読み物教材や、文法、発音の仕方、品詞等様々な英語に関する資料が配置されており、生徒の実態や指導のねらいに応じて活用できるようになっている。	○各「Lesson」の最初に、生徒が見通しをもつことができるように学習内容が明記されている。	○各「Lesson」の最初に生徒の興味・関心を引くような写真が配置されており、既習の英文の質問に答えるようになっている。	○「Project」では、４技能が統合された活動に取り組むことで学習内容が定着するよう工夫されている。	○「For Self-study」では、各学年で辞書の使い方や英語の学習方法が分かりやすくまとめられている。 ○「Review」では、挿絵と共に文法事項や、品詞が分かりやすくまとめられている。	○島根県出身のプロテニスプレーヤー、錦織圭についての長文読解のページがある。 ○２・３年の各「Lesson」「Use」の「Read」には段落番号があり、指導がしやすい。	○本来なら基本文として学習すべき英文が「Let’s Talk」の「Taking Point」として扱われており、指導に注意を要する。

選　定　に　必　要　な　資　料

外国語科　No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	１．内容、程度、分量等	２．教材の選択や構成等	３．興味・関心への配慮等	４．教科の特性、地域の実態や課題への適合等	５．発展的学習、自学自習についての工夫	６．その他	
G	○各学年､本冊と別冊の２冊で構成されている。 ○基本文には｢ここがポイント｣が明記されており､文法事項が分かりやすく説明されている。	○学年ごとに各「Lesson」の「Part」の始めに目標が提示され、巻末の付録の「Can-Do リスト」で目標や課題を確認できるようになっている。	○生徒の興味･関心が高まるような話題が多く取り上げられている。	○学年ごとに４技能の｢Tips｣が設けられ､生徒にとって有益な学習の手立てとすることができる。	○各学年の｢英語のしくみ｣では文法事項の確認ができるようになっている。1年生では､英語の語順の基本が取り上げられている。	○１年巻末に折り込みでＰＣキーボードの図を示し、ローマ字入力での方法が解説され、生徒が実際にタイピングして学習できるように工夫されている。	○本冊と別冊の２冊で構成され、生徒が繰り返し自主的に復習できるように工夫されている。別冊については、文字の大きさやレイアウト等工夫を要する点がある。
J	○生徒に身近な話題、外国の生活や平和･福祉、社会問題を扱い、生徒の発達段階に応じた題材が設定されている。 ○読み物教材が充実している分､分量はやや多めである。	○「Language Focus」では､文法事項が視覚にも分かりやすく学習できるように工夫されている。	○生徒に身近な話題を「Go for It!」で取り上げ､４技能を統合した言語活動が設定されている。	○学年ごとに４技能の「Your Coach」が設けられ､生徒にとって有益な学習の手立てとすることができる。	○各学年の「CLIL 英語で学び､考えようでは､他教科の内容と英語の両方をあわせて学び、考え、表現することができるようになっている。 ○巻末付録の「Word List」には、似た意味の単語の解説があり、有益である。	○巻末付録の「Let's Read More」には様々な話題について書かれた長文が取り上げられている。	○読み物教材が充実しており、読む力をつけることが期待できる。